

クオリティは言葉を超えて
QUALITY IS MORE THAN A WORD



ESPEC

環境マネジメントレポート 2001



第5回 環境レポート大賞
優秀賞を受賞しました



主催: 財団法人地球・人間環境フォーラム
社団法人全国環境保全推進連合会
後援: 環境省、毎日新聞社、日本経済新聞社
協力: 環境監査研究会

企業概要	1
製品及び事業	4
2000年度トピックス	8
環境マネジメントレポートの対象範囲	10

第 1 章	1. 経営者の声明	12
緒 言	2. 経営理念	14

第 2 章	1. エスベックグループの環境マネジメント活動概念	16
環境マネジメントシステム	2. エスベックグループ全社環境基本方針	17
	3. ISO14001	18
	4. 環境マネジメント体制・組織・責任	20
	5. 事業活動と製品・サービスの環境影響評価	21
	6. 法規制およびその他の要求事項	21
	7. 目標と実績概要	22
	8. 仕入先への対応	24
	9. 環境マネジメントシステム監査	24
	10. 教育	25
	11. 緊急事態への準備	26
	12. 営業環境マネジメント活動	26

第 3 章	1. 物質フロー	28
環境パフォーマンス	2. 主要項目推移	30
	3. 製品への取り組み（開発設計段階での取り組み）	32
	4. 生産活動・物流への取り組み	34
	5. サービスへの取り組み	37
	6. 製品リサイクルへの取り組み	38
	7. 広報・啓発・コミュニケーション活動	39
	8. オフィスにおける環境保全活動	42
	9. 社会貢献	43
	10. 環境会計	48
	11. 環境負荷量	49
	12. エスベックグループの環境年表	50

環境省-環境報告書ガイドライン（2000年度版）への対応	52
------------------------------	----

アンケート（挟み込み）

編集後記	55
------	----

エスペックって？

エスペックグループは、気象環境などを再現する「環境試験装置」などを製造・販売しています。

例えば、極寒の地を飛び立ち、数時間後には灼熱の空港に降り立つ飛行機は、短時間に100℃近くの熱ストレスにさらされます。このストレスは、製品・部品の品質や信頼性に大きく影響を与えます。

他にも、湿度、雨、雪、光、振動、圧力など。これらを装置内で再現し、品質保証や信頼性確保に役立てていただく装置が「環境試験装置」です。

この技術は、半導体、液晶などの高度な生産技術、生産性にも大きく寄与しています。



■ 株式会社エスペック 本社
(大阪市)



■ 福知山工場 (京都府福知山市)



■ 宇都宮テクノコンプレックス
(栃木県宇都宮市)



■ 神戸テクノコンプレックス
(兵庫県神戸市)



■ 東京本部 (東京都江東区)



■ 株式会社エスペックサービス
(大阪府寝屋川市)



■ 株式会社タバイ環境設備
(大阪府大東市)

エスペックグループ概要

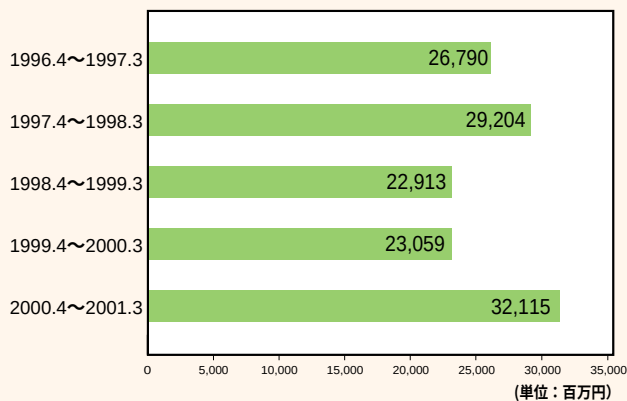
会社概要 (2001年3月31日現在)

創 業	昭和22年(1947年)7月25日
創 業 者	田 葉 井 五 郎
設 立	昭和29年(1954年)1月13日 田葉井製作所を設立
グループ総資産	417億5,100万円
発行済株式総数	23,499,894株
売 上 高	321億1,500万円
従 業 員 数	910名(正社員、嘱託、準社員含む)
事 業 所	本社(大阪)・東京本部 宇都宮テクノコンプレックス 神戸テクノコンプレックス 寝屋川技術センター
工 場	福知山・宇都宮
環境試験技術センター	宇都宮テクノコンプレックス内 神戸テクノコンプレックス内

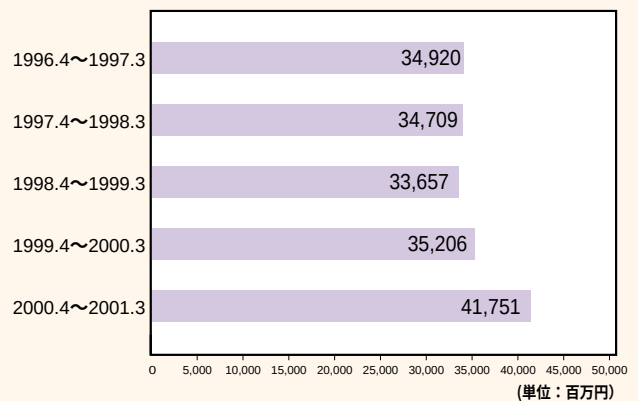
役員 (タバイエスペック株式会社、2001年6月28日現在)

代 表 取 締 役 会 長	小 山 榮 一
代 表 取 締 役 社 長	島 崎 清
専 務 取 締 役	山 田 義 信
常 務 取 締 役	野 路 井 達
常 務 取 締 役	安 達 智 一
常 務 取 締 役	進 信 義
常 務 取 締 役	鈴 木 繁 實
取 締 役	檜 作 榮 四 郎
取 締 役	中 井 良 雄
取 締 役	福 本 博 道
常 勤 監 査 役	柿 原 勝 幸
監 査 役	吉 岡 昭 一 郎
監 査 役	廣 信 義

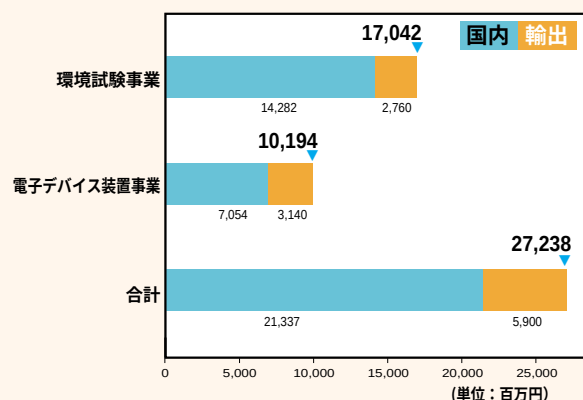
■グループ売上高推移



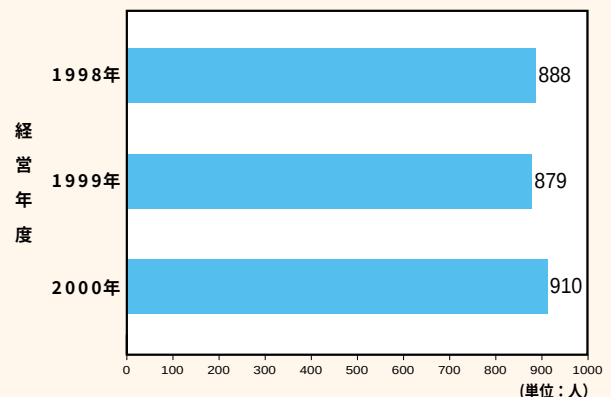
■グループ総資産



■品目別売上構成 (タバイエスペック株式会社)

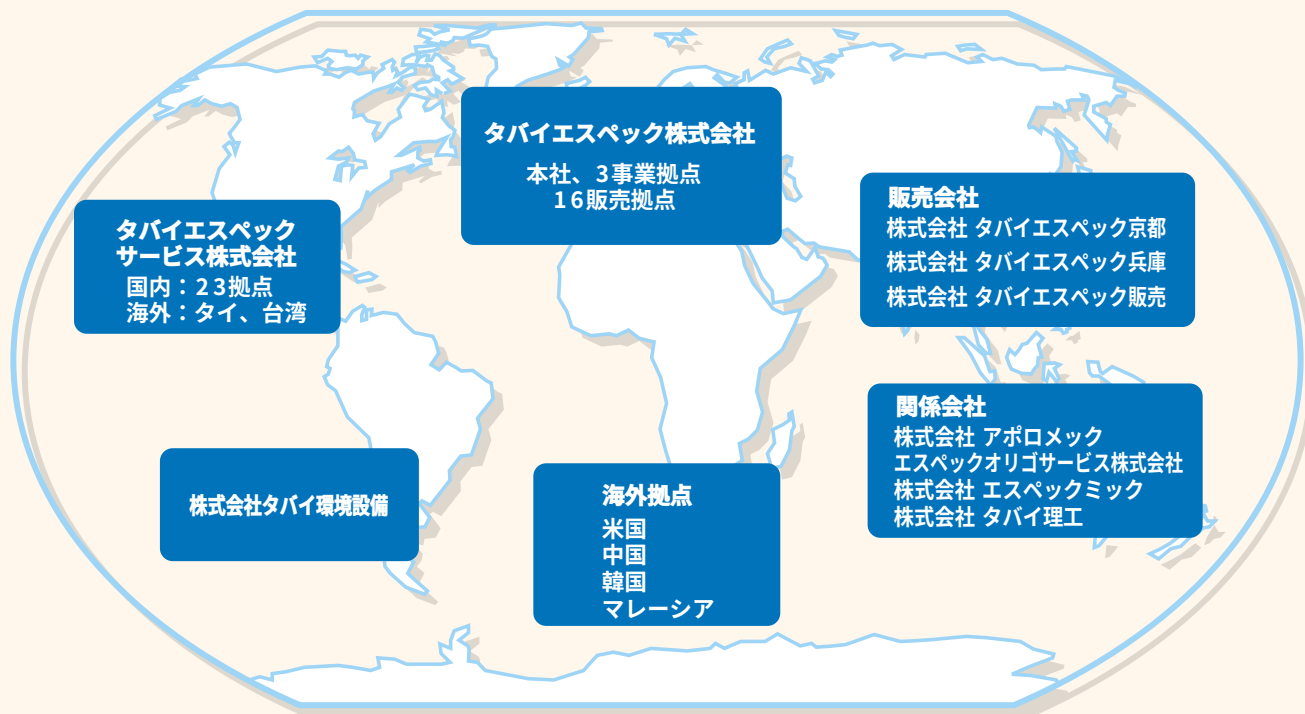


■エスペックグループ従業員数推移

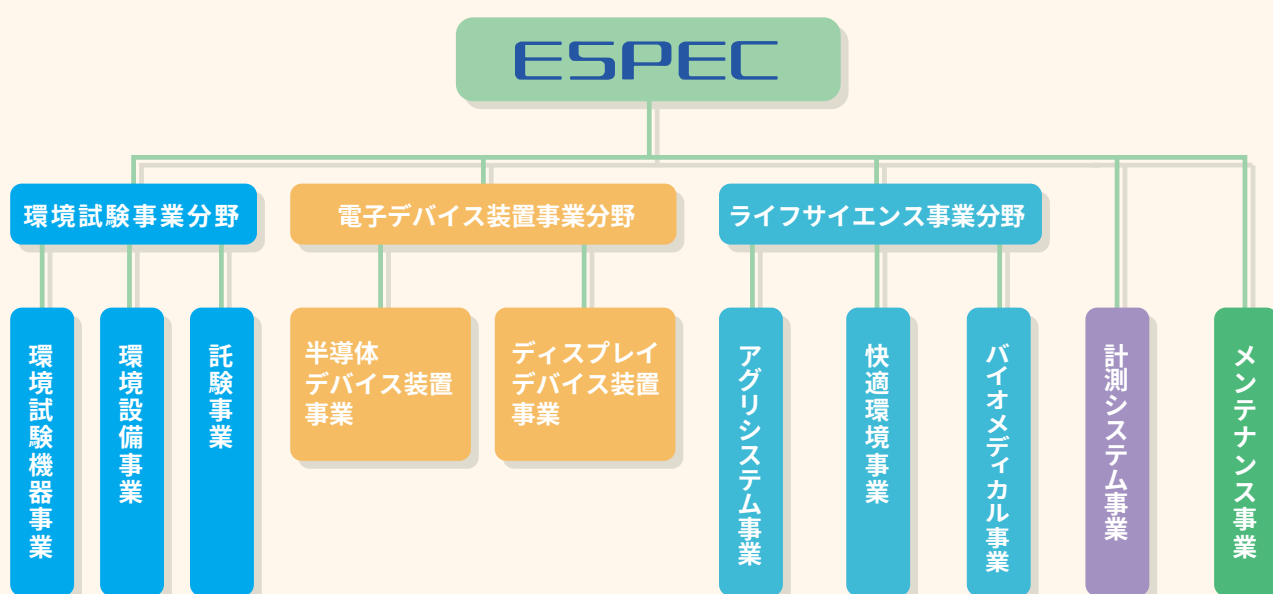


■エスペックグループ

エスペックグループは、タバイエスペック株式会社を中心に、製品またはサービス事業により分社化した子会社、販売会社、関連会社により構成されています。エスペックグループは、全社で環境について考え、行動します。



エスペックグループは、「環境創造力」を活かし、環境試験事業を核に、電子デバイス装置事業・ライフサイエンス事業に発展するとともに、新規事業にも積極的に挑戦しています。



製品及び事業

製品の紹介

環境試験器

例えば空港を飛び立ち、高度1万mの氷点下を経て、灼熱の空港へ着陸する飛行機。著しく変化する気象環境下でも、部品のひとつひとつが高い性能と品質を確保するためには、信頼性を確保する試験が不可欠です。その環境を人工的に創造する機器が環境試験器です。



■恒温(恒湿)器 プラチナスKシリーズ



■組立式恒温(恒湿)室 ビルドインチャンバー

計測・評価システム

電子機器の高性能化・小型化による部品の複雑化・高密度化。それらは電子機器の信頼性評価のあり方にも影響を及ぼし、新たな評価項目を生み出す背景となっています。エスベックグループでは、電子機器の信頼性試験に適したシステムを提案しています。



■イオンマイグレーション評価システム



■プリント基板・はんだ導体抵抗評価システム



■コンデンサ温度特性評価システム

自動化機器

無人化工場をめざして生産機器の自動化は進む一方です。エスベックグループは自動クリーン熱処理システムをはじめ、生産現場で信頼性確保に活躍する各種自動化機器を次々と開発。FAの確立にも大きく貢献するとともに、PDP／液晶ディスプレイの信頼性向上にも寄与しています。



■自動クリーンキュアシステム



■大型基板対応枚葉式縦型クリーンオーブン HSCシリーズ

ライフサイエンス

21世紀のリーディングテクノロジーといわれるバイオテクノロジー。エレクトロニクスが疾病の早期発見や治療に大きな役割を果たしはじめた医療分野。エスベックグループは細胞培養器から高気圧酸素治療器までを開発し、いま環境試験器で培った技術をバイオや医療分野へお届けしています。



■炭酸ガス培養器シリーズ



■高気圧酸素治療装置



■高度加速寿命試験装置 HAST



■冷熱衝撃装置 TSAシリーズ



■複合環境試験システム



■恒温器 パーフェクトオープン

半導体関連機器

VLSIからULSIへ、また三次元回路素子へのアプローチ。半導体デバイスはますます高集積・高性能化が進む一方です。エスベックグループの半導体関連機器は新技術開発から製造段階まで幅広い分野で、最先端の回路技術を支えています。



■ダイナミック／モニタードバーンインシステム



■AGV自動バーンインシステム

理化学機器

研究室や実験室で活躍する汎用理化学機器、技術革新があらゆる分野で進む今、その存在は重要性を増すばかりです。エスベックグループではこの理化学機器でも、ラボスターシリーズをはじめ数々の製品を提供。実験室や研究室の名アシスタントとして高い信頼をいただいています。



■恒温恒湿器 (ラボスターシリーズ)



■真空乾燥器

環境試験サポートサービス＜託験＞

エスベックグループがお届けする信頼性試験のサービス、それが託験です。環境試験技術センターはISOとIECが合意のもとに定めたISO/IECガイド25に基づくIEC Q独立試験所として認定を受けており、IECの品質認証試験はもちろんISO9000/14001シリーズの審査登録取得にもお手伝いしています。



■受託試験



■セミナー／コンサルティングサービス

製品及び事業

環境改善事業

エスペックグループでは、環境試験器、計測・自動化機器などの製品の提供のみならず、環境保全・環境改善事業についても取り組んでいます。その概要を紹介します。

自然環境保全分野

やすらぎ空間の創造

緑の資源再生

安全な食料の安定供給

緑化・自然再生

グリーンシステム

緑化・自然再生

自然環境の浄化をはじめとして、都市や郊外に緑をよみがえらせる緑化やそれにもなう環境分析などをシステムティックにとらえ実施します。そのための機器や装置の開発を通じて社会に貢献してまいります。

森づくり

施工前



施工後

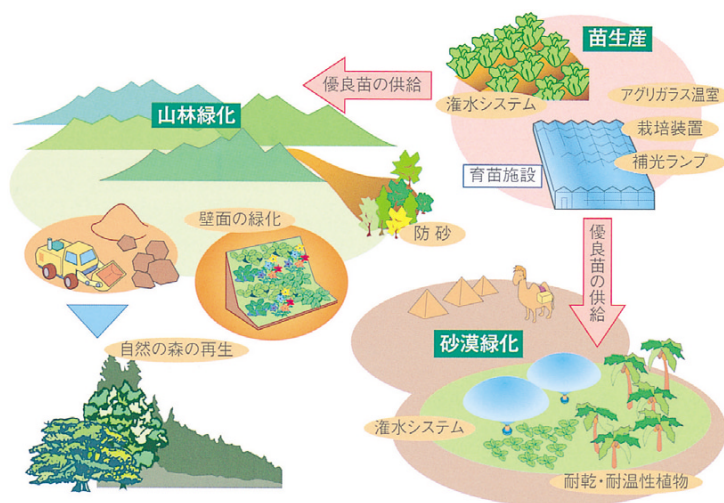


水辺づくり

施工前

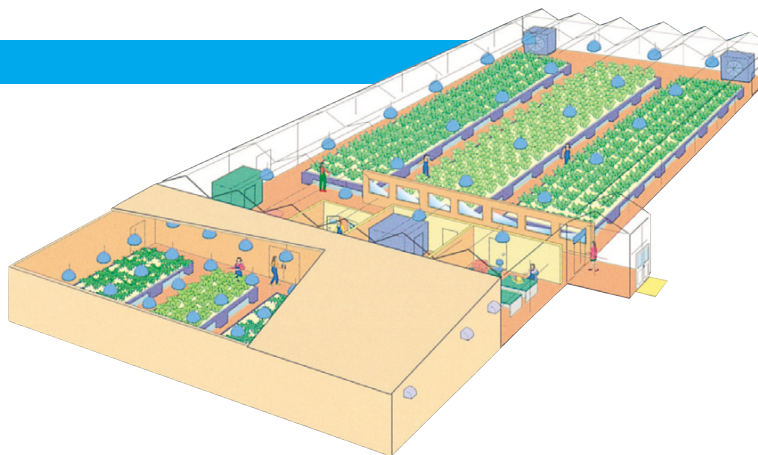


施工後



グリーンシステム

グリーンシステムは、光・温度・湿度・炭酸ガス濃度などの地上部環境と、土壌・溶液濃度などの地下部環境をコントロールすることで、苗生産・栽培を安定して効率よく行うシステムをご提供いたします。



■アグリガラス温室



■育苗・培養室(人工光型施設)



■コンテナ式植物栽培装置



■環境制御システム

環境測定・分析分野

自然災害の予防・管理

各種環境の測定

環境分析・コンサルティング

環境測定機器

計量証明

環境測定機器

環境分析を行う場合、長期にわたり温度や湿度、雨量などの環境因子の測定をおこなわなくてはなりません。エスペックグループは、コンパクトで長期間の使用にも耐えられ収集データの記憶、しかも遠隔地に設置した場合でもデータを自動転送する通信機能を備えた環境計測装置をご用意いたします。



■サーモレコーダーシリーズ



■クランプレコーダー



■レインフォールレコーダー

計量証明

河川・湖沼・海洋・工場排水などの水質、土壌や底質、あるいは工場や事業所から排出されるばい煙・ばい塵や大気環境、騒音の測定・調査・分析を行います。環境保全が必要とされるあらゆる分野で要望が高まっています。

また、環境マネジメントシステム<ISO14001>の認証取得を目指している企業へのサポートも実施しています。



■京都環境計量センター

生活・産業環境保全分野

空気環境の保全

水環境の保全

土壌・地下水の浄化

水処理・浄化システム

空気浄化システム

土壌・地下水浄化システム

水処理・浄化システム

エスペックグループは工業廃水、試験・研究排水、病院排水などさまざまな処理やリサイクルをはかる、排水処理関連機器をご提供いたします。わたしたちが掲げる「水資源のゼロエミッション」は、かけがえのない地球環境保全への第一歩です。



■排水高圧蒸気滅菌処理装置



■pH中和装置



■重金属排水処理装置



■排水化学殺菌処理装置



■洗車排水処理装置



■排水膜分離装置



■フロート式界面水吸収ろ過装置

空気浄化システム

わたしたちの生活空間や作業・生産現場における空気環境は、目に見えないところで悪化して、わたしたちの身体を蝕んでいます。エスペックグループはこのようなわたしたちの身の回りを守る、空気環境改善を行うシステム機器をご提供いたします。



■ミスト除去装置
(マイクロコレクター)

土壌・地下水浄化システム

現在、クローズアップされている土壌汚染。焼却残渣や工場廃液が土壌を汚染し、さらに地下水までも汚染はじめています。エスペックグループでは、この汚染土壌・地下水を浄化する「汚染地下水浄化工法」（特許申請中）の技術開発に取り組んでいます。これは、汚染地下水を、微生物を固定した浸透性バイオ壁によって浄化し、地下水の流れを阻害せず周辺の地下環境の保全に対しても有効です。



2000年度のトピックス

環境保全について

- 1 第1期環境管理中期計画（1996～2000年）が終了し、大きな実績をあげることができました。

▶ 22ページをご参照ください

- 2 エスベックグループ全社環境基本方針を全面改訂するとともに、第2期環境管理中期計画（2000～2003年）を制定しました。

▶ 17・23ページをご参照ください



- 3 製品引き取りを行う「エスベックリサイクルシステム」を正式に運用を開始しました。お客様先で寿命を全うした当社製品について、当社が引き取り、独自に認定した事業者により解体・再資源化を行うサービスです。（有償）

▶ 38ページをご参照ください

- 4 省エネ最大56％を達成した製品を開発、販売を開始しました。

▶ 33ページをご参照ください



従来比
56%
省エネ

■複合環境試験装置（従来比56％省エネ）



従来比
32%
省エネ

■小型冷熱衝撃装置（従来比32％省エネ）

- 5 グリーン調達を開始し、仕入先に対し環境管理活動の実施、環境に配慮した資材、部品、役務を要望しています。

▶ 24ページをご参照ください

- 6 東京本部が、営業活動での環境保全について取り組み、ISO14001を認証取得しました。また、中国・廣州にある「廣州爱斯佩克環境儀器有限公司」もISO14001を認証取得しました。

▶ 18・26ページをご参照ください



- 7 鉛フリーはんだの実用性、信頼性に関する研究を行い、その結果および信頼性試験方法について当社独自にセミナーを6回開催しました。これにより、約300名の受講があり、鉛フリーはんだの実用性にむけて広く社会にお手伝いできました。

▶ 39ページをご参照ください

事業活動について

1

神戸テクノコンプレックスを建設、2001年3月、稼働を開始しました。

製品・部品物流マネジメント拠点、受託試験拠点・[敷地面積:31910m²、延床面積:7631m²]



部品物流・製品物流を総合的にコントロール・集約・配送の合理化などを行うことにより、環境負荷を大幅に低減する物流拠点です。

また受託試験エリアでは、試験設備の排熱を積極的な外気導入と積極的な排気を行うことにより空調の環境負荷を低減しました。

2

福知山工場に第7工場を建設、2000年11月、稼働を開始しました。

主な生産物:自動化機器、半導体関連機器・[延床面積:2208m²]



インバータ制御の分割式クリーン空調機、ガスヒートポンプ式空調、マトリックス式照明スイッチなど、環境に配慮した省エネ工場です。

3

森づくり、水辺づくり（緑化・自然修復）を行う株式会社ミックに事業参加し、株式会社エスペックミックとして事業を開始しました。（資本金7900万円）

森づくり



水辺づくり



2000年度は、森作りを、4.3ha（21件）、277,800本の植樹を行いました。
また水辺づくりは、0.73ha（52件）を行いました。

環境マネジメントレポートの対象範囲

当環境マネジメントレポートは、エスベックグループのお客様をはじめとする多くの利害関係の皆様に対する環境関連情報の開示を目的としています。ESPEC環境マネジメントレポートは、毎年6月末（年1回）に発行しています。

1. 準拠した環境報告書ガイドラインなど

環境省-環境報告書ガイドライン（2000年版）
環境省-事業者の環境パフォーマンス指標

2. 対象年度

主に2000年度（2000年4月～2001年3月）の期間を対象とし、過去より継続して実施してきた内容についても期間を記述した上で掲載しています。

3. 事業の範囲

事業活動全般と製品・サービスにわたる環境保全について記述します。また環境保全・改善事業についても取り組んでいますので、その内容についても記述します。

4. 環境影響の範囲

事業活動、製品・サービスによって与える環境影響を局所から地球環境規模にわたって対象とし、また製品の全ライフサイクルにかかる環境影響についても記述します。

4. 環境影響の範囲

主にエスベックグループ内のISO14001認証取得事業所の活動結果を集計しています（従業員比率:63%）
エスベックグループ全体での環境マネジメントシステム構築は2003年を計画しており、エスベックグループ全体の環境報告は2004年6月の環境報告書にて記述します。

事業所名				報告 対象	社員数※3 (人)	社員 比率	ISO14001 取得年月	環境会計 対象範囲
エスベックグループ	タバイエスベック株式会社	単独事業所	福知山工場	○	250	26%	1996年12月	○
			宇都宮テクノコンプレックス	○	50	5%	1997年 3月	○
			東京本部	○	40	4%	2001年 2月	○
			本社	○	200	21%		○
			神戸テクノコンプレックス		30	3%		○
			寝屋川技術センター	※1	40	4%		○
			名古屋営業所		20	2%		○
		その他営業所（フロア利用）				60	5%	
	サービス	単独事業所	タバイエスベックサービス・本社	○	30	3%	1997年 7月	○
			タバイエスベックサービス・東京	※2	10	1%		
			タバイエスベックサービス・厚木	※2	10	1%		
			その他サービス拠点（フロア利用）	※2	50	5%		
	タバイ環境設備・大東事業所			○	40	4%	1998年 7月	○
	タバイエスベック京都				10	1%		
	タバイエスベック兵庫				5	1%		
	タバイエスベック販売				1	0%		
	タバイ理工				2	1%		
	アポロメック				50	5%		
	エスベックミック				15	2%		
	エスベックオリゴサービス				10	1%		
海外拠点（米国・中国・韓国・マレーシア）				70	7%	廣州:2000年12月		
				合計	993			

※1:製品の環境改善について

※2:フロン回収、廃棄物持ち帰り量について

※3:派遣社員、場内外注者を含む



第 1 章

緒 言

- 1. 経営者の声明 ————— 12
- 2. 経営理念 ————— 14



1 経営者の声明



2001年 6月
代表取締役社長

島 崎 清

社長の言葉

地球温暖化やオゾン層破壊の影響が目に見えるようになり、童謡で唄った動植物を子や子孫に伝えられない現在。資源浪費型経済社会から脱却できず廃棄物に埋もれようとしている現在。地球の歴史からみれば、ほんのわずかな過去50年という時間に、私たちが地球に残した傷跡は計り知れないものがあります。

企業のひとつひとつが、人間ひとりひとりが、あたりまえに環境について考え、行動するときです。それこそが、人類の存続はもとより、生きとし生けるものとの共生をはかるため、また、経済社会の維持・発展のためにも、歩むべき道と考えられます。

エスベックグループは理化学機器メーカーとして創業以来、「環境」をビジネステーマに、「より確かな生環境の提供」を使命とし、つねに人と社会と地球のよりよい明日を築くために、歩み続けてまいりました。

1996年からは、2000年までの第1期環境管理中期計画を機軸に、業界に先駆け、環境管理活動に取り組み、ほとんどの項目でその目標を大きく上回るという成果をあげることができました。特にオゾン層破壊係数を持つ冷媒の使用を「0」にできたことは、トップ企業としての責任を果たし、社会のニーズに合致できたものと考えています。

循環型社会元年である2000年を契機に、第1期の活動成果をふまえ、全社環境基本方針を見直すとともに、第2期環境管理中期計画を策定し、再スタートを切りました。この第2期においては、遵法と積極的な情報開示と双方向のコミュニケーションを土台に、「環境の世紀においても環境対応の先進企業」を課題とし、より一層の環境配慮製品の供給と確実な環境負荷低減を実現するプロセスの構築に向けた「エスベック環境経営」を実践するものです。

(1) エスベックエコプロダクツ

- 環境に配慮した省エネ・省資源・リサイクル容易な商品の開発など

(2) エスベックエコプロセス

- 事業活動でのさらなる省エネ・廃棄物削減と、よりよい環境マネジメントシステムの構築など

(3) エスベックエコマインド

- 社員の行動につながる環境を大切にすることを育む企業風土作り
- 環境試験器のトップ企業として、業界の牽引責任

その他にも、緑化と環境計量・改良技術などによる環境改善事業にも取り組んでいます。

エスベックグループは環境試験器メーカーの枠を超え、21世紀においても「環境」を通して社会に貢献し、「環境対応の先進企業」を目指して挑戦を続けることを誓約します。



2001年 6月
専務取締役

山田 義信

環境管理担当役員の言葉

政府が発表した2001年度版環境白書では、地球温暖化や化学物質汚染など、地球の限界を既に超えて人類は活動していると警告しています。

また北極点に向かった冒険家が見たものは、氷の世界ではなく、海であったとの新聞報道があります。

今後、社会が持続的な発展を維持するためには、企業が環境問題に積極的に取り組んで、循環型社会の形成に尽力していかなければなりません。

業界に先駆けるとともに、企業規模の枠を超えた環境への取り組みを続けるエスベックグループの第2期環境管理中期計画は、企業の社会的責任として環境管理活動をすすめることだけでなく、環境を守る企業から、環境を創る企業への変革を意味しています。

2000年度は生産系のサイトに引き続き、営業拠点である東京本部がISO14001の認証取得できました。また、当社の製品あるいは他社の製品をお客様が廃棄される際に、再資源化・適正廃棄のお手伝いをするための「エスベックリサイクルシステム」を業界で初めてスタートさせました。これにより、廃棄製品のリサイクル率が高まり、循環型社会形成に少なからず貢献できていると思っております。

今後も、製品のより一層の環境配慮への取り組み、事業プロセスでの環境負荷低減への取り組み、環境創造・環境改善事業の取り組みを進め、確実な環境経営をすすめてまいります。

21世紀においても「環境対応の先進企業」を目指します。

全ての情報を公開し、社会に役立ち、評価されることを基本的なスタンスとして、1998年より取り組んだ環境報告書。

2000年度の環境管理活動について記載しました「ESPEC環境マネジメントレポート2001」を発行いたします。

このレポートを手にしていただく皆様に、エスベックグループの「環境」への活動内容をご理解いただきたく、また、皆様からの率直なご意見を賜れば幸いです。

このレポートをきっかけとし、より多くの皆様と、より深いコミュニケーションができることを願っています。



第 2 章

環境マネジメントシステム

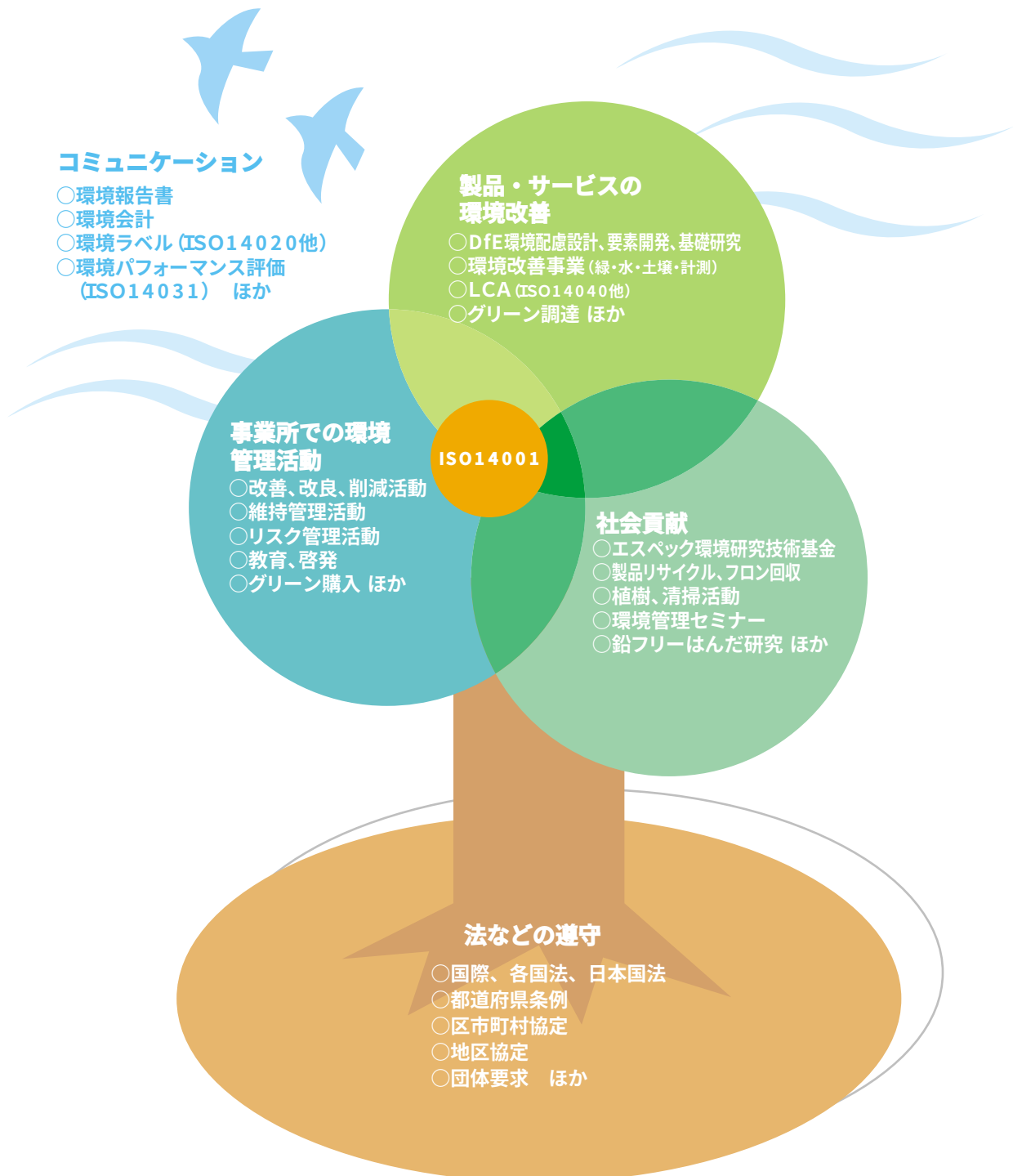
この章ではエスベックグループの環境マネジメント活動のしくみを紹介しています。

1. エスベックグループの環境マネジメント活動概念	16
2. エスベックグループ全社環境基本方針	17
3. ISO14001	18
4. 環境マネジメント体制・組織・責任	20
5. 事業活動と製品・サービスの環境影響評価	21
6. 法規制およびその他の要求事項	21
7. 目標と実績概要	22
8. 仕入先への対応	24
9. 環境マネジメントシステム監査	24
10. 教育	25
11. 緊急事態への準備	26
12. 営業環境マネジメント活動	26



1 エスベックグループの環境マネジメント活動概念

エスベックグループでは、環境マネジメント活動について、以下のように考えています。
なにより先に「遵法」。またエスベックグループが行う環境マネジメント活動へについて
利害関係者との「コミュニケーション」。これを土台に、「事業所での環境管理活動」、「製品・
サービスの改善」「社会貢献」を主たる環境マネジメント活動とし、その推進の核となる
考えが「ISO14001」と捉えています。



2 エスペックグループ全社環境基本方針

循環型社会元年である2000年をむかえ、エスペックグループ全社環境基本方針の見直しを、2000年4月に行いました。環境基本方針の見直しは次の5つのポイントで行いました。

(1) 循環型社会への対応

循環型生産システムの構築とリサイクルも容易な環境配慮製品の提供

(2) 環境創造、環境改善事業の展開

緑化などによる地球環境創造と環境計量・改良技術などによる環境改善事業の強化

(3) 新技術の開発、新システムの構築

次世代につながる環境対応技術の開発と独自リサイクルシステムの構築

(4) 業界リーダーの責任と自覚

環境先進企業として業界をリードする社会貢献の実現

(5) 環境マネジメント活動のレベルアップ

従業員およびその家族の環境意識の向上、情報公開の充実とより高い基準での遵法への取り組み



エスペックグループ全社環境基本方針

【基本理念】

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

【基本方針】

1. 事業活動の全ての領域で、省エネルギーの推進、排出物の減量化、資源の有効利用などを行い、環境の保護に努めます。
2. 省エネルギー、解体容易性、リサイクルのための技術を開発し、環境負荷の小さい製品を提供します。
3. 緑の育成・保護・復元技術を向上し、地球の環境を創ります。
4. 大気、水、土壌の計量・分析・改良技術を通じ、広く社会に貢献します。
5. 代替エネルギーの研究を推進し、第三世代冷媒、高効率断熱、熱リサイクルシステムを具現化します。
6. リサイクル素材の活用と徹底したリサイクルをめざしたエスペックリサイクルシステムを運用し、循環型社会の実現に寄与します。
7. 社員はもとより家族を含めた日常生活での環境管理活動を推進し、人の心と暮らしに基づく環境保全に努めます。
8. 環境の先駆者として常に業界をリード、牽引し、変化する社会に貢献します。
9. 環境管理活動にともなう情報を積極的に公開し、社会からの要求を反映します。
10. 活動を行う国々や地域の環境に対する法律、規制等を遵守し、さらには国々や地域間における法律上の格差が認められる場合には、より社会性の高い自主基準を定め、一層の継続的改善と維持管理に努めます。

1996年4月1日制定

2000年4月1日改訂

タバイエスペック株式会社

代表取締役社長 安原清

クオリティは言葉を超えて
QUALITY IS MORE THAN A WORD



3 ISO14001

エスベックグループでは、1996年に業界に先立ち、「環境管理」の導入を宣言。事業活動および製品・サービスについて積極的な環境管理活動を行うことにしました。その活動の一部として、エスベックグループの主要生産拠点などに対して、ISO14001の認証取得を計画。1999年までに4事業所が認証を受けることができました。

2000年度においては、東日本の営業拠点である「東京本部」が営業活動での環境保全を推進し、ISO14001の認証を取得することができました。

さらに海外の生産拠点である中国・廣州にある「廣州爱斯佩克環境儀器有限公司」でもISO14001の認証を取得しました。

今後は、タバイエスベック株式会社本社事業所及び2001年3月度より稼働開始した神戸テクノコンプレックスが2001年度中の認証取得を計画するとともに、2002年度には2営業拠点、関連会社の認証取得を計画しています。また2003年度中にエスベックグループ一括でのISO14001認証取得に向けて、国内エスベックグループ全社をその範囲とした環境マネジメントシステムの構築を実施中です。

福知山工場
1996年12月



宇都宮テクノコンプレックス
1997年3月



廣州爱斯佩克環境儀器有限公司
2000年12月



タバイエスベックサービス株式会社
本社事業所
1997年7月



株式会社タバイ環境設備
大東事業所
1998年7月



東京本部
2001年2月





4 環境マネジメント体制・組織・責任

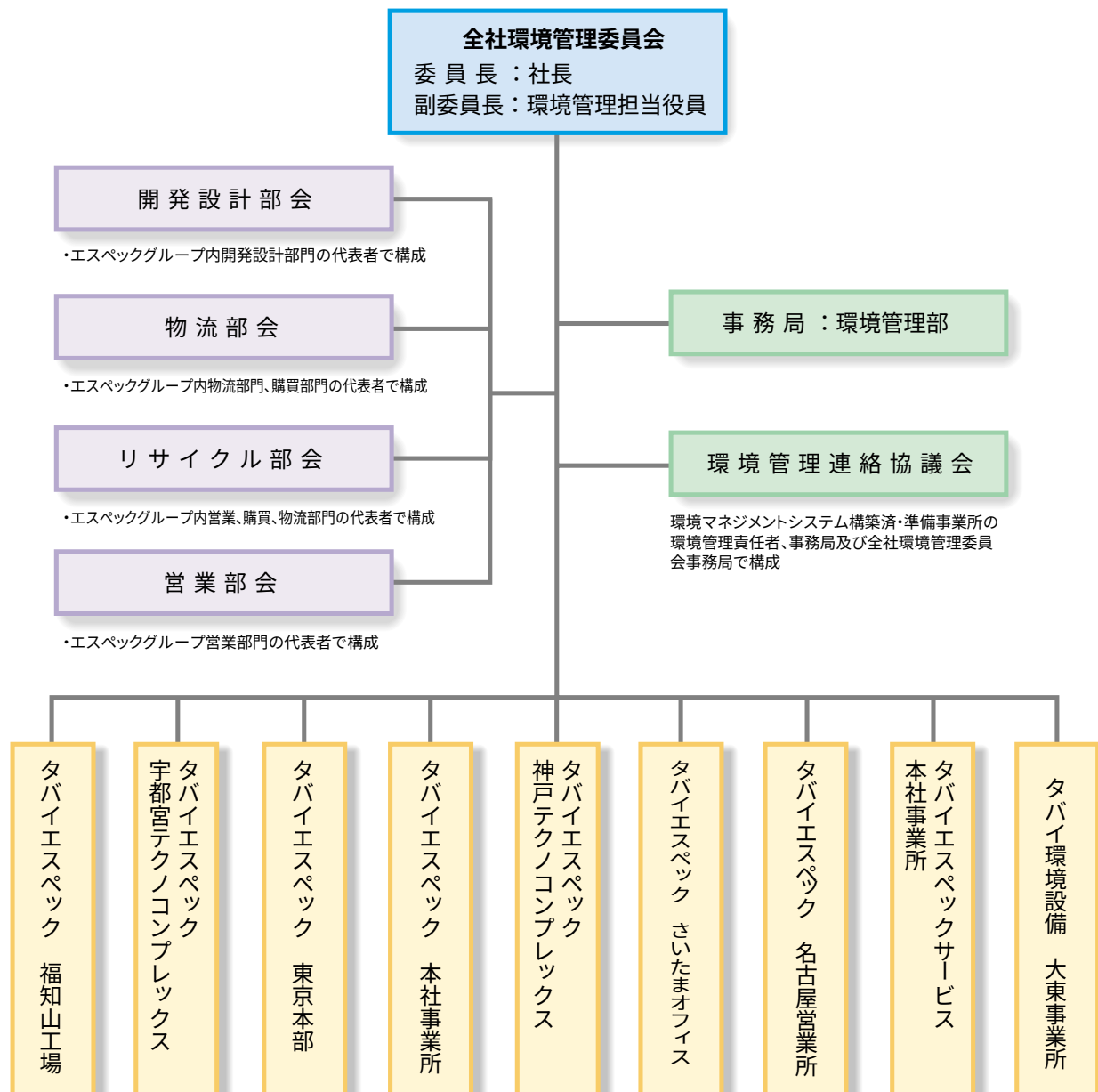
エスベックグループでは、1996年4月、「エスベックグループ全社環境管理委員会」を設置。グループ内の環境マネジメント推進母体としています。

委員長、副委員長には、社長と環境管理担当役員が自ら就任。委員会では全社での目標設定、進捗確認、案件の審議などが行われています。

全社環境管理委員会の下位には、ISO14001認証取得済事業所および取得予定事業所が繋がります。各事業所での環境管理活動の推進責任者は各事業所長とし、事業所長の指揮により事業所内で環境管理活動を実施しています。内部環境監査は、各事業所長直轄の内部環境監査チームを組織し、事業所内の内部監査を運営しています。

また、事業所間にまたがる問題、製品の環境改善など全社共通の問題に対し、4つの専門部会を設置しています。

さらに、事業所により活動に差異が生じることが多くなってきた今日、各事業所ごとの取り組みでよい点を学び、改善できる点は指摘しあうという目的で「環境管理連絡協議会」も設置し、定期的に情報交換を行なっています。



5 事業活動と製品・サービスの影響評価

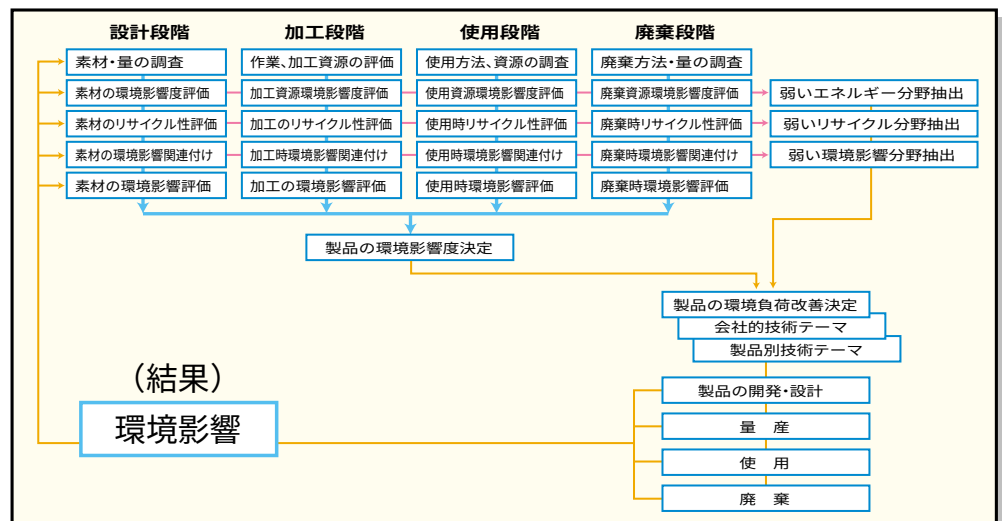
エスパックグループでは、事業活動が及ぼす環境影響（結果）は、次の10分類に区分しています。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 人の健康 | 2. 騒音・振動・悪臭・景観 |
| 3. 大気汚染 | 4. 水質汚濁 |
| 5. 地下水汚染・土壌汚染 | 6. 廃棄物処理場不足 |
| 7. 生態系変化・森林破壊 | 8. 地球温暖化 |
| 9. オゾン層破壊 | 10. 資源枯渇 |

この区分に対し、エスパックグループが行う事業活動での投入／排出行為との関連付け、関連付けの強さ、量に対する評価、重大性の評価を実施。現在／計画／過去の評価と、定常時、非定常時、想定した緊急時の評価を実施しています。

環境マネジメント活動の結果、著しい環境側面（原因）が見えなくなってきた場合、評価基準値を見直し、更なる環境改善を行うことにしています。

製品の環境影響については、製品のライフサイクル（資材投入～加工～使用～廃棄・リサイクル）における環境への影響を、開発・設計時に設計担当者自ら評価を実施。現在は、単位重量あたりの主要構成素材の評点を「1」とおき、他の素材の環境影響評価点を相対的に変化させた社内基準に設定し、これにより物質・行為毎のLCA的な評価を実施しています。今後は社会の動きに合わせたLCA手法に移行していく計画です。



6 法規制およびその他の要求事項

エスパックグループが環境に関連して適用を受ける法規制・条例・協定などに関しては、各事業所および開発・設計部門が管理する体制としています。

また、知り得た法規制などの情報に関して各事業所間、各部門への情報伝達ルート・手段を定め、漏れなく、かつ高くアンテナを張る体制を整えています。

さらに、第1章-2.経営理念にもあるとおり、世界の法規制についても遵守し、地域間に格差がある場合、より社会性の高い規制を適用することを宣言・運用しています。

各事業所が受ける法規制についての遵守・管理状況は、49ページをご参照ください。



7 目標と実績概要

エスベックグループでは、1996年4月、環境管理の導入宣言と同時に、2000年までの第1期
 全社環境目標を設定し、2001年3月を以て、大きな成果をあげるなか、終了することができ
 ました。この結果の詳細は「第3章 環境パフォーマンス」に掲載しています。

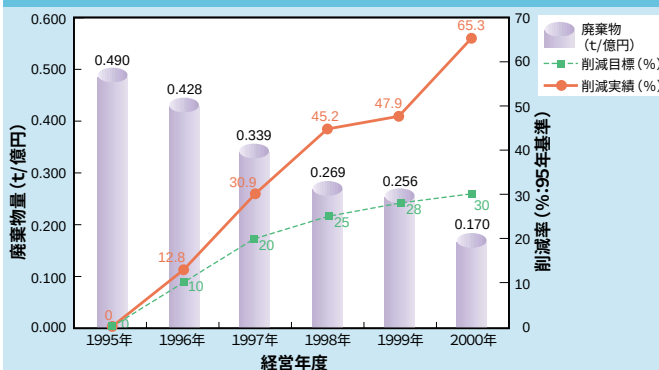
	項目	基準年	達成目標	実績（2000年度末）	自己評価	参照頁
事業活動	廃棄物	1995年	2000年度末までに 30%削減（原単位）	65.3%削減（原単位） 100.5t→44.2t 56%削減（絶対値）	◎	30ページ
	電力	1995年	2000年度末までに 20%削減（原単位）	25%削減（原単位） 622.8→832.1万kWh 33.6%増（絶対値）	○	31ページ
製品	製品の省エネ （電力）	1996年 生産品	2000年までに 30%削減	・プラチナスKシリーズ:平均32%、最大67% 省エネ機器賞の受賞 ・冷熱衝撃装置TSAシリーズ:34% ・バーンインチャンバー:48% ・小型冷熱衝撃装置TSE:32% ・複合環境試験システム:56%（当社従来製品比）	◎	33ページ
	冷媒フロン （HCFC）		2005年までに 全廃	1999年度までに完了	◎	33ページ
	リサイクル率	1996年	2000年までに 30%増	33%増（重量比） ・エスベックリサイクルシステムの運用開始 ・部品、材料、素材の通函化の促進 ・製品樹脂部品に材質マーキング ・製品取扱説明書に材質構成表を掲載	○	33ページ

第1期エスベックグループ全社環境目標

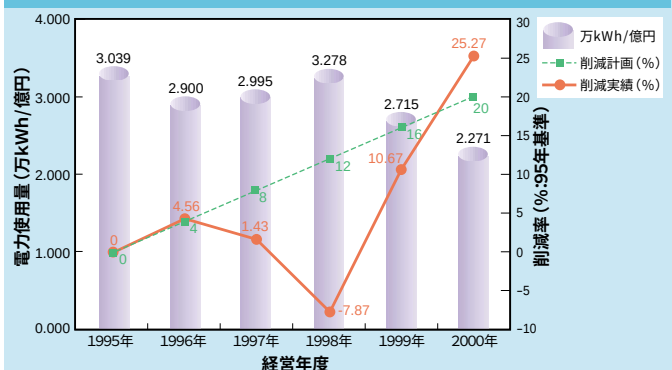
1999年4月21日改訂

- ◎:大きな結果
 ○:計画に沿った成果
 △:計画を下まわる、または計画から外れる成果
 ×:計画を大きく下まわる成果

廃棄物への取り組み（原単位）:ISO14001取得事業所



電力削減への取り組み（原単位）ISO14001取得事業所



また2000年を迎えるにあたり、第1期環境管理中期計画（1996～2000年）から、第2期環境管理中期計画にステップアップ。

第2期環境管理中期計画では、2000年を第1期環境管理中期計画とオーバーラップする形で、期間を2000年から2003年までとし、2003年までの目標値を設定しました。

2000年度の目標値および実績は次の通りです。

	項目	基準	第2期達成目標 (2000～2003年)	2000年度 達成目標	2000年度実績	自己評価	参照頁
事業活動	排出物の削減	1999年	2003年までに 10%削減（原単位）	排出物5%削減	26%削減 ※ISO取得事業所合計	◎	30
	製品製造に関わる電力削減	1999年	2003年までに 5%削減（原単位）	製品製造に関わる 電力2%削減（原単位）	19%削減 ※国内生産拠点合計値	◎	31
	エスベックリサイクルシステムの運営	—	2000年度運用開始	2000年度正式運用開始	・2000年度運用開始 ・社外への広報実施	○	38
	グリーン調達	—	2000年度運用開始	2000年度運用開始	2000年度運用開始	◎	24
	環境管理活動の 範囲拡大 —ISO14001	—	2003年までにエスベック グループとして ISO14001の取得	・(海外) 米国、上海生産拠点 へ働きかけ ・(国内) 東京本部の環境マ ネジメントシステム構築 ・(国内) 一括取得方法の研究	・(海外) 廣州エスベック ISO14001取得 ・(国内) 東京本部 ISO14001取得 ・一括取得企業の事例研究	○	18
	環境管理活動の 範囲拡大	—	2001年以降、仕入先・ 家庭を含んだエスベック 環境ウィークの開催	・家庭と一緒に環境イベ ントの開催 ・従業員家庭へのPR資料 作成	・家庭と一緒に環境省 「生き物調査」の実施 ・環境家計簿の配布と意 識調査	○	25
製品	製品の省エネルギー (電力)	1996年	2003年までの開発品に おいて機種平均30%減	当年度開発製品について 機種平均30%減	小型冷熱装置 : 32%減 複合環境試験器 : 56%減	○	33
			2003年までに熱処理器 に30%以上の省エネ技術 の開発、製品の展開	熱処理器に対する省エネ 技術の開発（継続）	断熱構造、遠赤外線ヒータ の設計検討	○	33
	脱フロン	—	2003年までにオゾン層 破壊、地球温暖化につな がらない環境試験機用冷凍 回路の研究・開発着手	代替冷媒に関する研究 (継続)	代替冷媒に関する研究の 継続	○	33
	リサイクル	1996年	リサイクル素材の 使用率: 5%	・使用推奨素材選定と 公示 ・使用禁止素材選定と 公示 ・同上規定化	・同左項目の見直し ・ガイドラインの改訂 ・環境仕様書の作成 ・リサイクル評価方法の 決定	○	33

第2期エスベックグループ全社環境目標

◎:大きな結果
○:計画に沿った成果
△:計画を下まわる、または計画から外れる成果
×:計画を大きく下まわる成果



8 仕入先への対応

エスペックグループは資材、部品、役務を仕入先様より調達し、製品・サービスの提供をお客様に行うことが主たる業務です。環境への影響はエスペックグループだけでなく、仕入先様にも及んでいます。

エスペックグループでは、2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定。グリーン調達を開始しました。

エスペックグループは、仕入先様についても、環境に配慮した資材、部品、役務を要望していきます。



仕入先様へのグリーン調達説明会



またエスペックグループは、グリーン調達を実施するにあたり、仕入先様の環境マネジメントシステム構築を支援しています。エスペックグループが経験した環境マネジメントシステムの構築方法および、ISO14001取得のノウハウを仕入先様に対して全面的に公開、仕入先様での指導、説明会の開催、エスペックグループの事業所見学、環境マネジメントシステム文書・記録・帳票の提供などを行っています。これにより2000年度は、仕入先様より1社がISO14001を認証取得されました。

9 環境マネジメントシステム監査



内部環境監査風景

エスペックグループでは、ISO14001の認証取得事業所および認証取得予定事業所に対してISO14001・JIS Q14000に基づく年2回の内部環境監査を実施。環境マネジメントシステムの「意図(しくみ)の有無」「実施状況」「有効性の確認」を重点的に監査します。結果は経営層に報告するとともに、改善点については、ただちに是正を講じています。

また外部審査を、1996年のISO14001の認証取得後、年1回受けています。

2000年度は、タバイエスペックサービス・本社事業所が更新審査を受けました。結果はいずれも重大な指摘はなく、認証登録を更新することができました。

2000年度 内部環境監査/外部審査状況		福知山工場	宇都宮テクノ コンプレックス	東京本部	タバイエスペック サービス本社	タバイ環境設備 大東事業所
内部監査 指摘件数	第1回	45件	6件	25件	12件	5件
	第2回	63件	6件	—	14件	2件
外部審査 指摘件数 ※いずれも観察事項		2件	2件	1件 (本審査)	2件 (更新審査)	1件

10 教 育

■訓練、自覚

エスベックグループでは、環境マネジメント活動の第一歩は教育から、と考えています。社内職制による教育の実施、自己啓発教育、資格認定制度を運用し、従業員の環境意識の高揚に努めています。対象者は社内従業員はもちろん、派遣社員、場内外注者も対象としています。従業員ひとりあたりの環境関連教育時間は3.1時間でした。（派遣社員、場内外注者含む）

教育・自覚手段の種類	内 容
職制による環境マネジメント教育	職制を通じて、啓発教育、マネジメントシステム教育、緊急事態に関する教育などを定期的に実施。
自己啓発教育(社内教育制度)	社内講座 「環境管理 (ISO14001) 入門講座」。 環境管理部が講師となり休日に開催。自主参加。社内教育制度中、最も受講者数の多い講座である。
自己啓発教育(通信教育制度)	従業員が希望する通信教育講座の申込代行。優秀な成績で修了した者に対して奨励制度の用意。
エスベック環境強化週間	6月5日を含む週を「エスベック環境強化週間」と設定。 環境改善提案、環境功労表彰、地域清掃などを実施し、啓発を行う。（40ページをご参照ください）
エスベック環境ニュース	環境管理部より全従業員を対象に発行する冊子。環境パフォーマンス、法改正情報などを平易に掲載。（不定期発行）

■資 格

エスベックグループでは、環境マネジメント上重要な業務に携わる従業員に対して資格認定制度を導入。また従業員は、環境関連の資格取得に対しても熱心に取り組んでいます。

資格名	内 容
内部環境監査員	社内資格。社外の内部環境監査員セミナーを修了し、事業所長が認めた者に与えられる資格。現在26名。

公認資格名	人数
環境計量士（濃度）	3
環境カウンセラー	2
公害防止管理者（大気1種、2種、4種）	5
公害防止管理者（水質）	6
公害防止管理者（騒音）	9
公害防止管理者（振動）	5
環境マネジメントシステム主任審査員	1
環境マネジメントシステム審査員	2
環境マネジメントシステム審査員補	4
電気主任技術者（3種）	9
エネルギー管理士（電気）	1
冷媒フロン回収・再利用技術	18

公認資格名	人数
高圧ガス製造保安責任者（甲・乙・丙種）	6
冷凍空調技師（1・2種）	103
危険物取扱者（甲・乙・丙種）	296
消防設備士（甲・乙種）	16
消防設備点検資格者（1・2種）	2
作業環境測定士	1
臭気判定士	2
防火管理者	66
衛生管理者（1・2種）	13
衛生工学衛生管理者	3
産業廃棄物焼却施設技術管理者	1
乾燥設備作業主任者	15

公認資格名	人数
放射線取扱主任者（第2種）	5
エックス線作業主任者	4
有機溶剤作業主任者	24
酸素欠乏危険作業主任者	19
空調調和衛生工学会設備士（衛生）	4
空調調和衛生工学会設備士（空調）	9
特定化学物質等作業主任者	19
毒劇物取扱責任者	6
特別管理産業廃棄物管理責任者	6
ボイラー技士（2級）	20

■家族を含めた啓発・意識付け

エスベックグループでは事業活動での環境保全活動の範囲にとどまらず、日常生活での環境保全活動、環境意識の高揚が必要と考えています。2000年度は、環境省・緑の国勢調査「身近な生き物調査」を従業員の家族を交えて実施、また従業員家庭での環境家計簿の記入などを行いました。





11 緊急事態への準備



緊急事態訓練風景

エスペックグループでは、ISO14001認証取得事業所を中心に、事故などにより地域や地球規模の環境問題を起こすことがないように、未然防止対策を施しています。一例として、緊急事態発生時の対応設備・道具の配備、対応手順の制定、通報ルートの設定などを行い、同時に定期的な訓練とテストを行っています。

なお、過去において緊急事態の発生はありませんでした。

また、製品について環境面のリコールはありませんでした。

福知山工場	宇都宮テクノ コンプレックス	東京本部	タバイエスペック サービス本社	タバイ環境設備 大東事業所
●有機溶剤、廃油による火災拡大 ●有機溶剤、廃油の漏洩による土壌汚染	●有機溶剤・フロンによる火災拡大、漏洩、有毒ガスの発生	なし	●有機溶剤、廃油、高圧ガスによる火災拡大、有毒ガスの発生 ●有機溶剤、廃油の漏洩による土壌汚染	●有機溶剤、廃油、高圧ガスによる火災拡大、有毒ガスの発生 ●有機溶剤、廃油の漏洩による地下浸透・土壌汚染

想定した緊急事態内容

12 営業環境マネジメント活動

製品を生産・販売するエスペックグループは、生産での環境マネジメント活動にとどまらず「営業」での環境マネジメント活動を開始しました。

東日本全域の営業拠点である東京本部では、単に事務所内の環境マネジメント活動だけでなく、セールスマンが製品を販売するという行為が与える環境影響を評価。

●環境に関するお客様の声を積極的に聞き、製品・サービスに活かす。(インプット)

●環境に良い製品・サービスをお客様に提供する。(アウトプット)

これが、営業活動での環境マネジメント活動である、と定義。お客様からの環境に関する声の入手件数、エスペックグループの環境に配慮した製品の拡販に対し、数値目標を設定し、活動を開始。2001年2月、日本全国でも例が少ない営業拠点でのISO14001の認証を受けることができました。

またこの営業マネジメント活動は、単に東京本部の活動だけではなく、全社環境管理委員会の下部組織である「営業部会」が、全営業機能に展開、全営業部門での「営業マネジメントシステム」に展開・推進していきます。

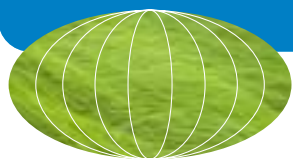


第 3 章

環境パフォーマンス

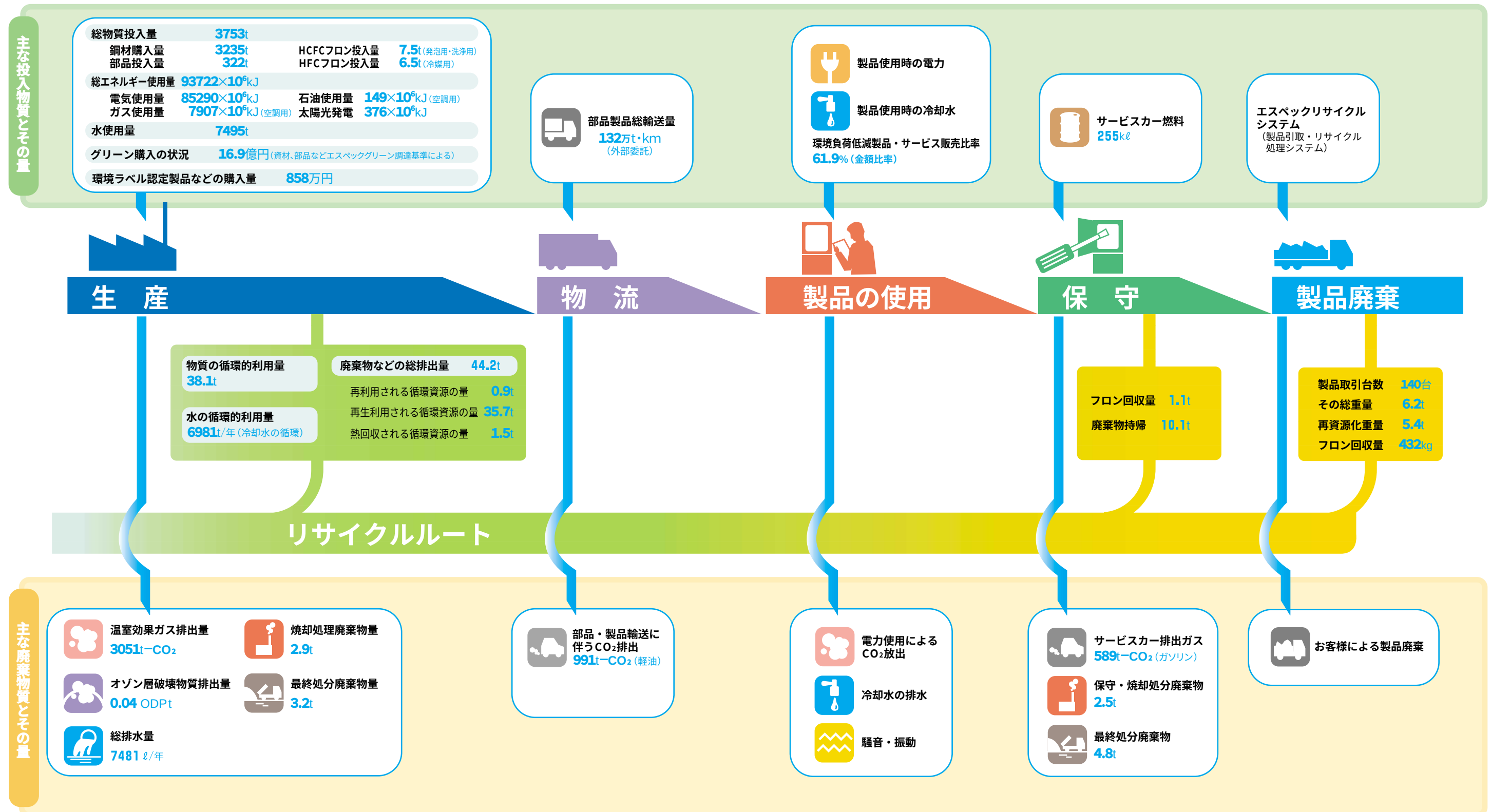
この章では前章—環境マネジメントシステム—に沿って活動を行った結果を紹介しています。

1. 物質フロー	28
2. 主要項目推移	30
3. 製品への取り組み（開発設計段階での取り組み）	32
4. 生産活動・物流への取り組み	34
5. サービスへの取り組み	37
6. 製品リサイクルへの取り組み	38
7. 広報・啓発・コミュニケーション活動	39
8. オフィスにおける環境保全活動	42
9. 社会貢献	43
10. 環境会計	48
11. 環境負荷量	49
12. エスパックグループの環境年表	50



1 物質フロー

エスベックグループでは1999年度から事業活動により投入/排出物の量を「物質フロー」として公開しています。今回は従来の報告項目に加え、環境省「環境報告書ガイドライン(2000年版)」において、「重要な記載事項」とされている項目についても記載しています。当ガイドラインの「可能であれば記載することが望ましい内容」などにつきましては、11.環境負荷量(49ページ)をご参照ください。



各数値の算出方法は、環境省「環境報告書ガイドライン(2000年度版)」および環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」に準じる。



2 主要項目推移

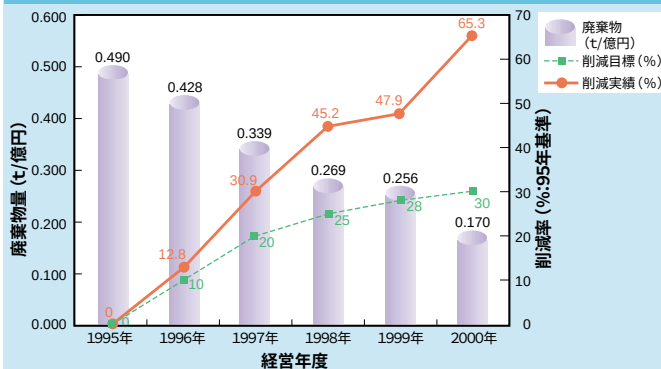
エスベックグループでは、全社環境基本方針、全社環境目標に、当社グループの主要な環境側面である廃棄物と電力について、削減を言及。1996年度から2000年度の第1期環境管理中期計画に数値目標を設定し、削減への取り組みを進め、大きな成果をあげることができました。

■廃棄物への取り組み

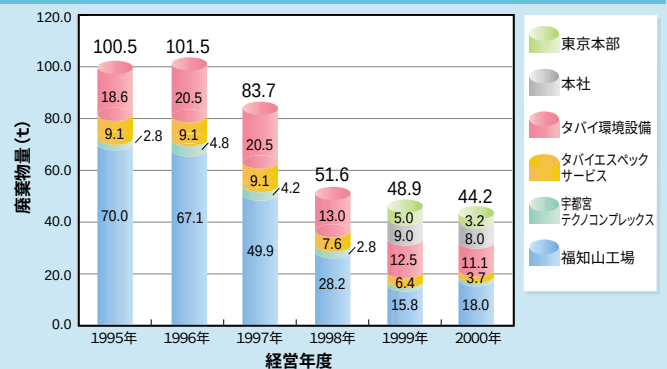
第1期環境管理中期計画では、廃棄物は、1995年当時の量に対して2000年度末（2001年3月）までに30%削減（生産原単位）と設定。2000年度末、65%削減することができました。また、絶対値では、56%削減できました。

その活動の主体は、廃棄物を徹底した分別を行い、有価物、有用物化することでした。

廃棄物への取り組み（原単位）：ISO14001取得事業所

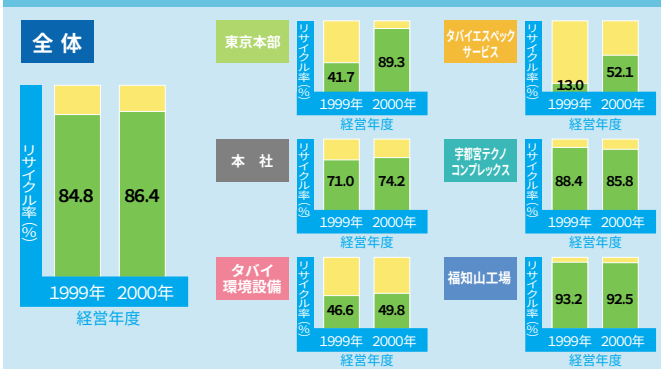


廃棄物総量（絶対値）：ISO14001取得事業所

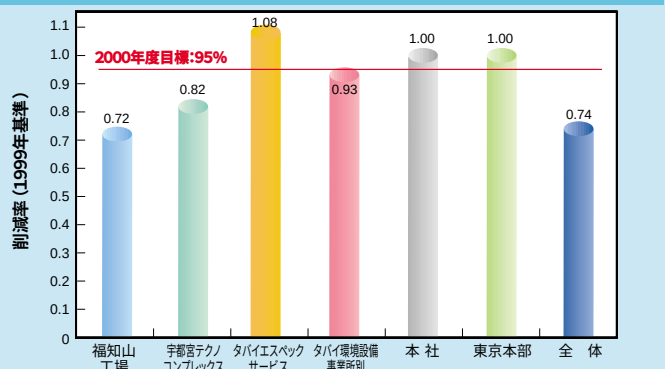


また2000年度をオーバーラップする形で設定した第2期環境管理中期計画では、廃棄物を有価物化・有用物化すればそれで本当に環境によいと言えるのかと考え、排出物を削減することとしました。その目標値は2003年までに10%削減と設定。2000年度の主な取り組みは、投入量の削減、物品物流での通函の徹底利用、部材の増量発注施策を行い納入回数の低減による梱包材・緩衝材の削減などを行い、計画を上回る成果が得られました。

廃棄物のリサイクル率



排出物削減への取り組み（生産額・売上額原単位・1999年基準）



生産工程での排出物の分別



現物を貼り付けた分別方法揭示板



排出物集積場

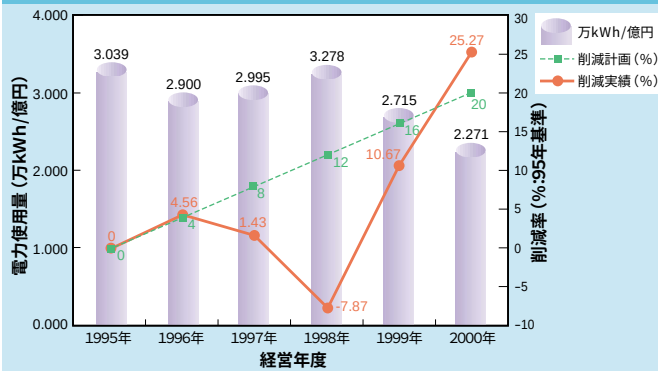


排出物集積場での最終分別状況

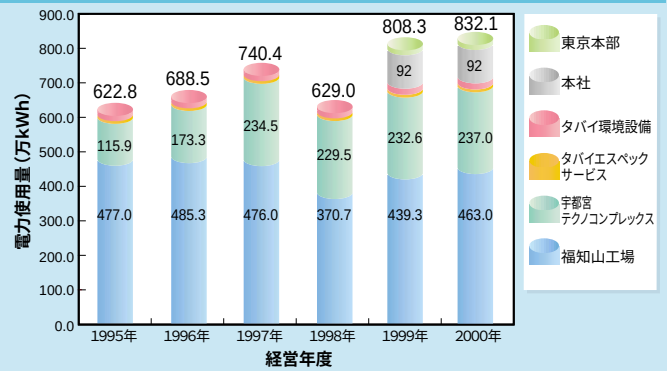
■省エネ(省電力)への取り組み

エスベックグループの事業活動に必要とするエネルギーは、ほとんどが「電気」です。第1期環境管理中期計画では、1995年当時の量に対して2000年までに20%削減(生産原単位)と設定。2001年3月現在、25%削減することができましたが生産量に大きく影響される形となりました。その活動は、設備の入れ替えやインバータ等の省電力設備の取り付け、生産工程の統合・効率化、こまめに電源を切るなど、多岐にわたっています。

電力削減への取り組み(原単位) ISO14001取得事業所

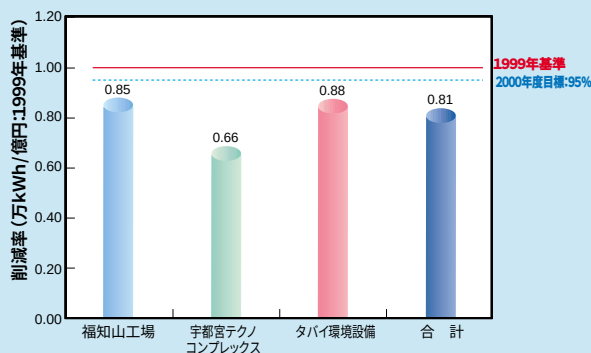


電力使用総量 (ISO14001取得事業所)



第2期環境管理中期計画(2000~2003年度)では、生産量の変化の影響など外乱要因が多かった製造に関わる電力削減についての的を絞り取り組むこととしました。その目標値は2003年度末までに5%削減(生産額原単位)としました。2000年度は、19%削減を行うことができました。

製品製造に関わる電力の削減(生産額原単位:1999年基準)



24時間稼働している工業用ポンプに、インバータを取り付け



圧縮空気配管に電磁弁を取り付け、業務終了・非使用回路は自動的に遮断する



各工場(建物)単位の電力使用量の常時監視、事務所にて一括観測・監視

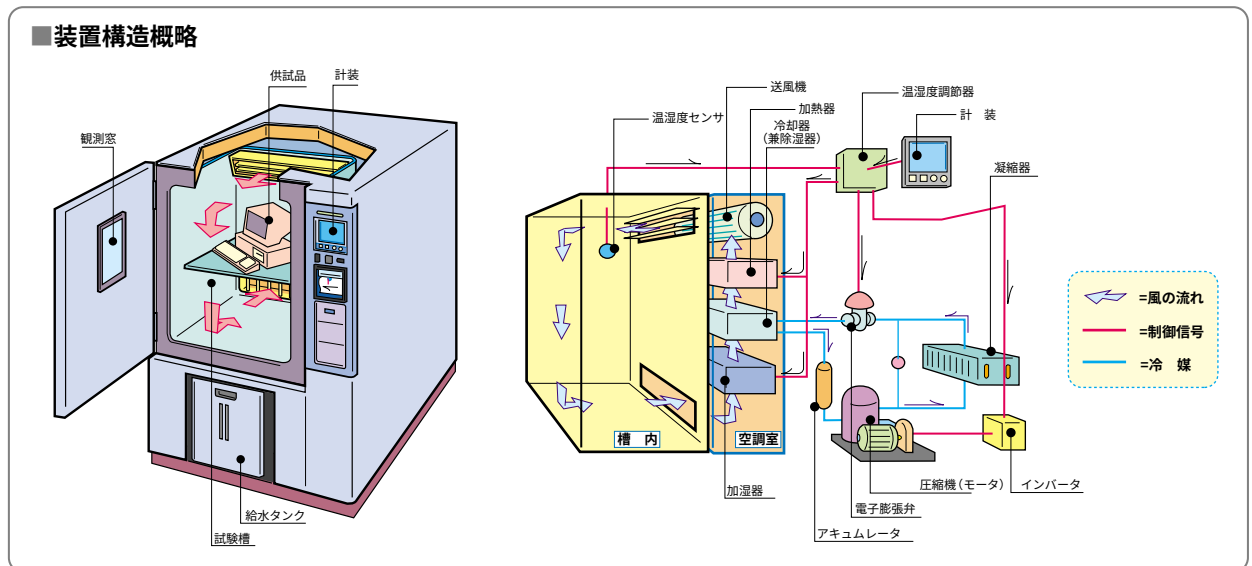


事務所照明用スイッチと、消灯チェックシートによるこまめな節電の周知徹底



3 製品への取り組み（開発設計段階での取り組み）

エスベックグループの主力製品「環境試験装置」は、下図のような構造、構成になっており、大きさは机の上に載るサイズから旅館の大広間ほどもある大型製品まで幅広く取り揃えています。お客様の多種多様なニーズにお応えし、短期間でお納めしております。

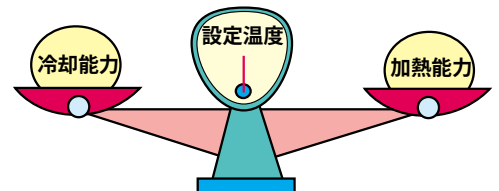


環境試験装置は、金属の内外槽、ウレタン断熱材、電気・機械部品などで構成されています。気象環境を再現するのに、HFCフロンを用いた冷凍回路と電気ヒータによるバランスで温湿度を制御しています。

この環境試験装置が地球に与える影響は、

- ・フロンによる地球温暖化
- ・多大な消費電力による地球温暖化
- ・廃棄時の処分問題

などが挙げられ、改善点を多く抱えています。



エスベックグループは製品の環境改善に目標を持っています

製品の省エネルギー (電力)	1996年	2003年までの開発製品において機種平均30%減
		2003年までに熱処理器に30%以上の省エネ技術の開発、製品の展開
脱フロン	—	2003年までにオゾン層破壊、地球温暖化につながらない環境試験機用冷却回路の研究・開発着手
リサイクル	1996年	リサイクル素材の使用率：5%

第2期 エスベックグループ全社環境目標—製品に対する目標

この自らに課した目標を達成するため、製品の改善・改良を実施するだけにとどまらず、基礎研究・要素開発も行っています。



複合環境試験システム



小型冷熱衝撃装置



素材マーキング例



段ボール梱包例

消費電力削減

製品の消費電力を削減し、使用時の環境影響を少なくすること。エスベックグループが製品の最重要課題のひとつに挙げたテーマです。

2000年度開発の、複合環境試験システムでは56%、小型冷熱衝撃装置では32%消費電力を削減することができました。(当社従来製品比)

また1997年発売の恒温恒湿器プラチナスKシリーズでは、消費電力を最大67%、機種平均32%の削減を達成しました。この成果は、社団法人日本機械工業連合会「第19回平成10年度優秀省エネルギー機器表彰」受賞という評価をいただいています。



プラチナスKシリーズ



リサイクルへの取り組み

金属でできた外槽と内槽との間にウレタン断熱材を施した当社の製品。現状、解体が困難であり、廃棄物処分場に負担をかけています。エスベックグループでは開発段階から製品のリサイクルを考え、

- ・解体しやすい構造
- ・一般工具で解体できる構造
- ・解体手順書の発行、公開
- ・樹脂部分への材質マーキング

などを新規開発品・モデルチェンジ品に適用、同時に2000年度はリサイクル素材の採用を2品目追加しました。

梱包材への取り組み

エスベックグループは梱包材についても考えています。容器包装リサイクル法の施行に伴い、ますます厳しくなる梱包材料への配慮。これに対し、エスベックグループは前倒しで取り組んでいます。たとえば製品をカバーする樹脂製袋は、厚みを極限にまで薄くしました。梱包材料についても、また、重量物である当社製品は従来、木枠梱包を余儀無くされていましたが、

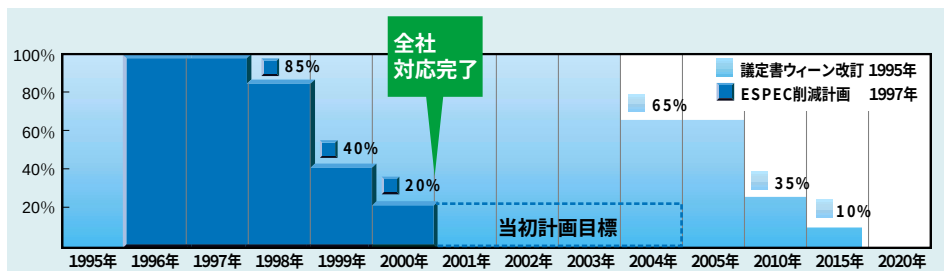
- ・重量物用ダンボール梱包の開発 (特許2件公開中)
- ・輸送業者との連携による裸 (梱包なし) 輸送

を実施しています。

これらの取り組みにより、森林資源の保護、緑の保護、有害物質の排除に努めています。

フロンへの取り組み

エスベックグループでは、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフロンへの転換を進めています。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、1999年秋、当社製品の主要製品 (出荷台数比98%) の冷凍回路からHFCフロンへの転換が完了しました。





環境配慮開発設計ガイドライン

エスベックグループでは、製品に対する環境への配慮を一層推進するため、1999年春、社内規定「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定、同時に運用を開始。2000年度は、当規定を現状に沿わせると共に、より使いやすくするため52件の改訂を行いました。

当ガイドラインは、エスベックグループの開発設計部門が製品開発・設計時に適用する規定で、

- ・製品ごとの環境目標値
- ・資源投入～加工～使用～廃棄の全ライフサイクルの環境アセスメントの実施指示
- ・「環境デザインレビュー」の実施指示
- ・環境面の技術評価、環境の評価を含む品質評価の実施
- ・経営層による環境面審査、量産・出荷可否判断
- ・使用推奨素材の指定、使用禁止物質の指定
- ・環境配慮表現指標の定義、用語の定義

などで構成されています。

4 生産活動・物流への取り組み

立地における環境保全

エスベックグループでは、1996年以来、毎年、各事業所での土壌汚染の分析を継続しています。もちろん、土壌汚染となる作業・業務は行っていないが、「土壌汚染をするような作業・業務を実施していないことを、計測・分析して実証する」ことを継続しています。計測結果は、法規制値を大きく下回っています。

危険有害化学物質への取り組み

現在、エスベックグループでは、約300種類の危険有害化学物質を使用しています（当社基準に基づく選定）。これらの危険有害化学物質について、

- ・購入時に、MSDS（材料安全データシート）が事前に用意 されていない場合は購入できない。また、使用する事業所の環境管理責任者の承認を要する。
- ・使用、保管時の手順書の作成。および手順書に基づく教育の実施。
- ・危険有害化学物質ごとの緊急事態に関する訓練、教育、テストの実施。
- ・無害性物質、低害性物質への転換。

などを行っています。

法的使用禁止物質の使用・保有の禁止はもちろんですが、現在までに、無害性・低害性物質の置き換えを31品目実施しています。（2000年度は8品目置き換え）

また、PRTR法への対応として、全事業所の危険有害化学物質の購入・使用・廃棄・移動量把握のための全社ネットワークを構築。現在、運用を開始しています。

■第1種指定化学物質の名称ならびに排出量及び移動量

単位 (t)

第1種指定化学物質の名称		トルエン	HCFC 141b	鉛	HCFC -225
第1種指定化学物質の番号		227	132	230	144
取 扱 量		0.79	6.86	0.41	0.64
製品に充填		—	6.20	0.09	—
リサイクル		—	0.66	0.32	0.35
排 出 量	イ) 大気への排出	0.79	—	—	0.29
	ロ) 公共用水域への排出	—	—	—	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 ニ) 以外	—	—	—	—
	二) 当該事業所における埋立処分	—	—	—	—
移 動 量	イ) 下水道への移動	—	—	—	—
	ロ) 当該事業所の外への移動 イ) 以外	—	—	—	—
備考		油脂洗浄	断熱材発泡用	プリント基板ハンダ	プリント基板洗浄液

エスベックグループでは、第1種特定化学物質の100gを超える扱いについて報告の義務を設定し、運用しています。2001年度、2002年度は法的には5tを超える取扱いについて報告義務がありますが、それを下回る取扱いについても、自主的に公開します。また上記表については、法が定める報告様式に加え、より理解していただくために項目を追加しています。

速 報

エスベック環境マネジメントレポート2001の校了間際にうれしいニュースが飛び込んできました。お知らせします。

タバイエスベック福知山工場様

平成13年6月8日
京都府企画環境部環境政策監

平成13年度京都府環境トップランナー表彰について

平素は京都府の環境行政の推進にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。
さて京都府では、「環境先進地・京都」を目指す意識の高揚を図るため、地球温暖化防止や循環型社会の形成など、環境の保全や創造に向けた先駆的・先進的な取組を行い、府民の環境配慮行動に多大な影響を与えた事業者・団体の皆様を「京都府環境トップランナー」として表彰する制度を創設し、この度、貴社を知事から表彰させていただくことになりました。

つきましては、表彰式を下記のとおり行いますので、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

記

1.日時 平成13年6月19日（火）

～以下省略。京都府からの連絡書類より～

他に寶酒造株式会社様、琴引浜の鳴り砂を守る会様も表彰されました。



流通への取り組み

「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」。従来の物流システムの基本でした。しかし、このために、毎日少量の資材が入荷し、トラック便の入場回数も増えていました。エスベックグループでは、あえて資材・部品の在庫量を見直し、トラック輸送回数、梱包材料の削減を行っています。

■徹底した通函化

事業所の排出物の大半を占めるのは、仕入先様からの資材・部品納入に伴う梱包材や緩衝材。分別リサイクル処理のために多くの時間と費用を費やしているばかりでなく、資材の価格にも含まれています。エスベックグループでは、梱包材・緩衝材に関し通函化することを契約条件にしています。

またエスベックグループから仕入先様に通函を提供し、納品してもらうシステムも構築しています。これにより、梱包材・緩衝材の総量は、1995年当時の量に比べ、2000年度は42%削減（重量比）することができました。

また緩衝材などは、いったん社内でプールし、社内物流に再利用したり、任意の仕入先に無償で持ち帰ってもらうことで事業所から出る廃プラスチック類の量を、39%削減することができました。

■製品・部品の集中配送システムによるトラック便削減

エスベックグループは、主に京阪神に主力工場を持ち、資材などの仕入先様も京阪神の仕入先様にお願いしています。従来は、製品納入及び仕入先様からの納品に際し、個々にトラックを手配・または自社トラックにより納品をしていました。そこで、エスベックグループでは、大阪にエスベックグループへの集中配送場所を設置。仕入先様はそこに納品し、エスベックグループへの納品は、トラック1台により、各事業所に一括して輸送されます。これにより、トラック便を大幅に削減することができました（従来、4500便／年→1250便／年）。CO₂の削減、NO_x、SO_xの削減、交通公害の削減に寄与しています。



グループ内物流専用車

また2001年3月より稼働を開始した「神戸テクノコンプレックス」が行うサプライチェーンマネジメントシステムにより、今後、大幅な物流効率の向上が期待されます。



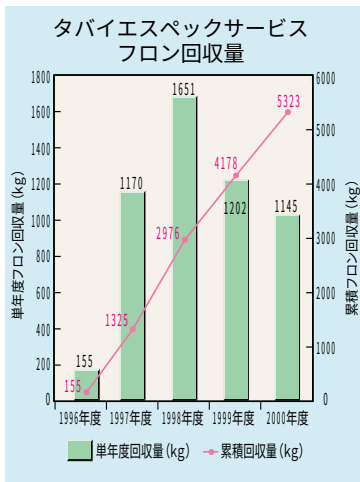
神戸テクノコンプレックス

5 サービスへの取り組み

社会でのフロン回収

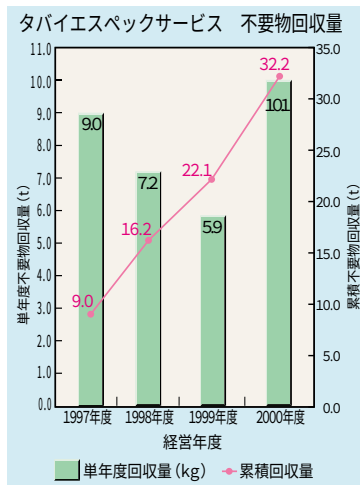
エスペックグループのサービス会社であるタバイエスペックサービス株式会社は、冷媒フロンの回収を行っています。当社製品をお使いいただき、修理・廃棄される場合、フロンは大気に出すしかありませんでしたが、タバイエスペックサービス株式会社では、業界に先駆け、1995年、修理・廃棄時のフロン回収を開始しました。回収した冷媒フロンは、冷媒メーカーに返送、冷媒メーカーは高温プラズマ破壊等の処理を行い、無害化します。ご希望のお客様には破壊証明書を発行しています。

その回収量はお客様のご理解も得られ、5,323kgにも及びます。(2001年3月現在累積値) また各生産工場においても、冷凍回路の再調整を要する製品に対し、冷媒フロンの回収を実施。2000年度は、286kgを回収しました。



お客さま先からの不要物回収

タバイエスペックサービス株式会社では、お客様先で行った保守・修理業務時に発生する不要物を全て持ち帰り、自社内で分別・適正処理するシステムを運用しています。これにより、お客様先で分別・リサイクルするしくみがなかったり、少量のため廃棄せざるを得なかった不要物についても、リサイクルの途を開きました。その回収量は、32.2tになります。(2001年3月現在累積値)



無形の商品への取り組み

エスペックグループでは、環境試験器などの有形の商品以外に、無形の商品も提供しています。

- ・「保守修理サービス」- タバイエスペックサービス株式会社が行う、お客様先での製品に対する保守・修理サービス
- ・「託験(受託試験)」- お客様から試験試料を預かり、またはお越しいただき、当社の製品群を設置した試験場所で、試験を実施するサービス
- ・「試験器レンタル」- エスペックグループの製品を短期レンタルするサービスなどがあります。

エスペックグループでは、これらのサービスについても、環境影響評価を実施、著しい環境側面を設定し、改善に取り組んでいます。たとえば、託験では試験装置の電力を、試験器レンタルでは梱包材を著しい環境側面として設定。試験準備時間、後処理時間の短縮、レンタル製品専用梱包材(通函)の運用などをおこなっています。



託験(受託試験)



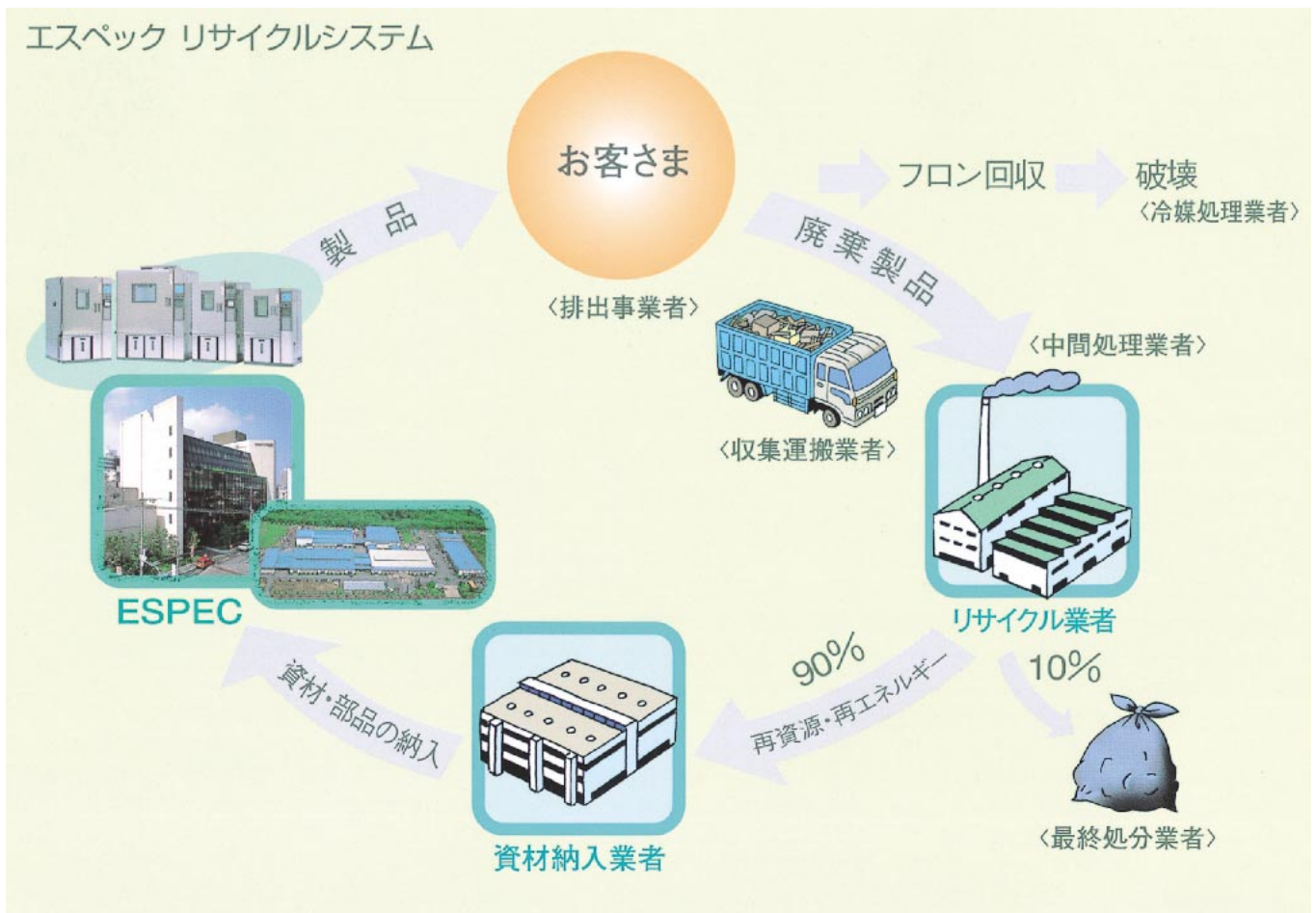
6 製品リサイクルへの取り組み

エスペックグループは、寿命をまっとうした製品についても考えます。当社の製品は10年以上ご使用いただける製品です。しかし10年前の製品には「リサイクル」の考えは入っていませんし、構造上、解体・分別しにくい製品でもあります。エスペックグループでは、従来、お客様先での廃棄にたよっていた「寿命をまっとうした製品」についてもメスをいれました。それが「エスペックリサイクルシステム」です。

お客様から寿命をまっとうした製品を引き取り、フロンなどを抜き取った後、エスペックグループが評価・選定した専門業者の手で、再資源化・再エネルギー化します。（有償）2000年度は、140台、6.2tの製品を引き取り、5.4tを再資源化ルートに載せるとともに、432kgの冷媒フロンを回収することができました。

これにより、お客様はもちろんエスペックグループでも、コスト上難しかった「リサイクル」を進めることができました。

現在、製品1台あたりのリサイクル率は90%（重量比：機械選別）。今後もリサイクル率の向上と、再利用への道を開拓していきます。



7 広報・啓発・コミュニケーション活動

エスペック環境管理セミナー

環境の重要さ、大切さを知っていただく。当社の環境管理活動を見ていただき、役立てていただく。ISO14001の取得方法をご理解いただき、援助させていただきます。この考えのもと、エスペックグループは、「エスペック環境管理セミナー」を開催。約300社を超えるお客様にお越しいただき、ご好評をいただいています。(1999年10月現在)

2000年度は、このエスペック環境管理セミナーの運営によって得られたノウハウをもとに、18社のお客様(企業)に対し、同等の情報公開を行うことができました。またお客様(企業)8社より、環境マネジメントシステム構築に対し支援依頼をお受けし、延べ25日の支援を行うことができました。



鉛フリーはんだへの取り組み

土壌汚染、人体への影響が問題視されている、鉛を含有するはんだ。

エスペックグループでは1998年より社内に「鉛フリーはんだ推進委員会」を設置し、鉛フリーはんだへの取り組みを行っています。

鉛を含有しないはんだを使用した場合の電子部品・装置の信頼性低下。思いがけない故障の発生。エスペックグループは環境試験器のトップメーカーとして、過去より蓄積してきた信頼性試験技術の提供と、鉛フリーはんだの信頼性試験技術の開発を推進し、社会での実用化に寄与しています。

エスペックグループでは1999年以降「鉛フリーはんだセミナー」を無償で開催。大学教授、先進企業の方の講演およびエスペックの研究成果などを発表し、多くの方に好評をいただいています。

2000年度は6回実施。294名の受講者を得られました。





エスベック環境強化週間

1997年、エスベックグループは6月5日の「世界環境デー」を含む週を、「エスベック環境強化週間」に設定。その週間内に、社長が主要事業所を回り、環境保全の必要性を従業員にアピールするとともに、事前に募集した「環境改善提案」の審査・表彰、各部長が評価した「環境功労表彰（部門・個人）」が行われます。

また2000年度は、2001年度2月にISO14001の認証取得をおこなった東京本部も含めて5事業所の全従業員で地域清掃をおこなっています。清掃区域は、通勤路、近隣の公園など。回収したゴミは毎年、数トンに及びます。この活動は、地元のマスコミに取り上げられるとともに、地域住民の方々から好評をいただくと共に、通行の方よりはげましのお言葉を頂戴しています。



	1997年	1998年	1999年	2000年
環境改善提案件数	社 内：313件 仕入先： 44件 合 計：357件	社 内：177件 仕入先： 22件 合 計：199件	社 内：282件 仕入先： 14件 合 計：296件	社 内：179件 仕入先： 14件 合 計：193件 ※テーマ:リサイクル
	1997年	1998年	1999年	2000年
環境功労大賞	福知山工場	タバイエスベックサービス 本社事業所	テクニカルセンター	京都環境計量センター
環境管理 システム賞	宇都宮テクノ コンプレックス	宇都宮テクノ コンプレックス	・タバイエスベックサ ービス本社事業所 ・タバイ環境設備一 大東事業所 ・宇都宮テクノコン プレックス	開発設計部会
製品環境改善賞	物流部会	開発プロジェクトセ ンター	(該当者、該当部門 なし)	R&Dセンター、 システム技術部
審査委員長賞	・タバイエスベック労働 組合福知山支部 ・環境管理部	物流部会	通勤路のゴミを毎日 拾いながら通勤 する特定社員	福知山工場の特定 廃棄物削減担当者
	1997年	1998年	1999年	2000年
環境写真コンテスト				
大賞			1名	(該当者なし)
優秀賞			5名	(該当者なし)
佳作			5名	2名



環境大会風景



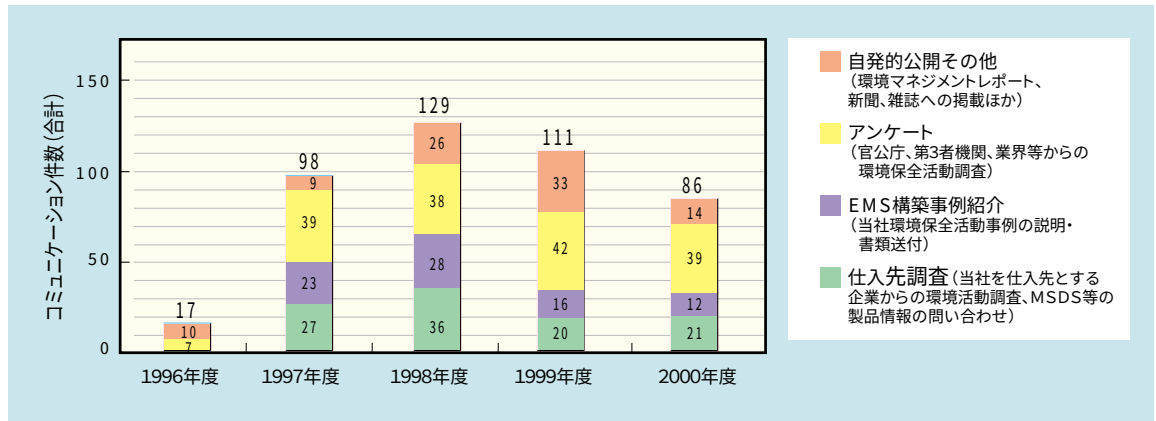
環境改善提案・表彰式



地域清掃（東京本部）

外部コミュニケーション件数

エスベックグループとお客様、周辺住民の方々をはじめとする利害関係者とのコミュニケーション件数は下図のとおりです。なお、外部からの苦情はありませんでした。



前号である、「エスベック環境マネジメントレポート2000」は約14000部発行しました。この環境マネジメントレポート2000の巻末にはアンケート用紙を添付。2001年5月までに10件のご返送をいただきました。ありがとうございました。

その内容は、お褒めの言葉以外にも、ご意見、ご希望も頂戴することができ、その内容と当「エスベック環境マネジメントレポート2001」での対応は以下のとおりとしました。

	ESPEC環境マネジメントレポート2000についてのご意見、ご希望、ご指摘	ESPEC環境マネジメントレポート2001での対応
1	外部コミュニケーション件数の内訳、手段、媒体が不明 (小平市・H氏、日野市・H氏)	外部コミュニケーション件数グラフの内容を内訳・媒体が分かるように変更しました。(41ページ)
2	フロン回収について、どのようなルートで回収・破壊処理しているのか? (大阪府・K氏)	フロン回収に関する記述の項に対し、フロン回収ルート、破壊依頼先、破壊処理方法概要を記述しました。(37ページ)
3	イメージ写真が使用されているが、環境管理活動との関係が問われるのでは? (日野市・H氏)	イメージ写真の掲載を極力排除し、掲載する場合は誤解を招かないよう配慮しました。
4	環境マネジメント体制組織・権限と、通常の組織・権限の関係が見えない。通常の組織の責任ある立場の人間が環境マネジメントを行っていることを示す必要あり。(日野市・H氏)	環境マネジメント組織の説明に、責任者名を記述しました。(20ページ)
5	ゼロエミッション工場の記述があるが定義が不明確。(日野市・H氏)	廃棄物削減が99%以上となった宇都宮テクノコンプレックスに対し「ゼロエミッション工場」の記述を行っていました。当報告書から削除しました。
6	「緑」、「生命の源である水」、「大気之母」といったあいまいな表現が用いられている。(日野市・H氏)	文章中のあいまいな表現を極力、排除しました。
7	水質管理について、放流先(下水/河川)を記述しては? (日野市・H氏)	水質管理の項において、排水先を記述しました。(49ページ)
8	ホームページでも掲載しているなら、それを記述して一層のPRをしてはどうか。(田無市・M氏)	弊社ホームページURLを記述しました。(54ページ)
9	環境管理活動の記述内容・範囲が、グループ全体なのか個別企業の活動なのか分からない。(大阪市・S氏)	個別企業のみに関する記述に対しては、その個別企業名を記述し、区別するようにしました。
10	環境会計において、効果を記述すべき。(大阪市・S氏)	環境省「環境会計ガイドライン 2000年版」に沿って、効果についても記述しました。(48ページ)



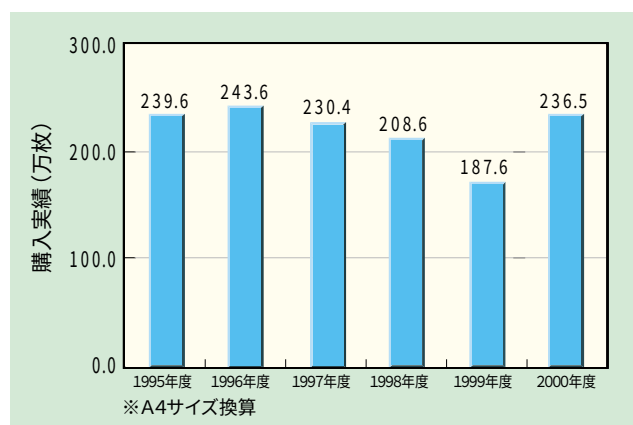
8 オフィスにおける環境保全活動

事務用紙削減

事務・設計に必要な各種事務用紙。大切な森林資源を費やしているとともに、生態系の変化、種の絶滅をもたらしています。エスベックグループでは、事務用紙の削減に努めています。

- ・指定用紙の古紙配合率の見直し
- ・使用済みのコピー用紙の裏面再利用
- ・縮小・両面コピーによる配布枚数の削減
- ・配布先の見直し、回覧化、電子メール化
- ・電子媒体による保管・閲覧など

当社主力工場の福知山工場では、2000年度は急激な生産増により減少傾向にあった事務用紙購入量が大幅に増加しました。



グリーン購入推進

エスベックグループでは、事務用品、OA機器、衛生用品などについてもグリーン購入を推進しています。現在の選定基準は、環境保全に関するエコマークのあるものと、まだまだ弱いものですが、今後は、エスベックグループ内での銘柄指定・一括購入をめざします。OA機器では、パソコンのディスプレイに注目し、一般事務用のパソコンディスプレイは消費電力の少ない液晶ディスプレイを、またエネルギースターマークの機器を選定しています。2000年度は、グリーン商品（当社基準）の購入額は、859万円でした。

省エネの推進

事務所はもちろん、事業所全体での昼休み・定時後消灯はすでに定着しています。

エスベックグループでは、それ以外に

- ・定時後のパソコンやコピー機の電源OFF
- ・白熱灯から蛍光灯への変更工事
- ・自然光を活かしたレイアウトへの変更
- ・冷暖房の適正温度設定と管理

などを行っています。また、環境改善提案制度によって出されたこまかな提案も、実施に移しています。

クルマに対する環境保全

営業車、サービスカーなど、エスベックグループでは約81台のクルマを保有しています。アイドリングストップ運動を実施するとともに、燃料費優先で選定していたディーゼル車から、排気ガスが比較的きれいなガソリン車への置き換えを進めています。

2000年度は3台をハイブリッドカーに置き換えるとともに、活用方法を見直し1台の社用車を削減することができました。



9 社会貢献

社会に貢献できること。エスペックグループは考えています。「環境」の重要性・大切さを知っていただく。環境保全・改善を支援させていただく。大きなことはできませんが、継続していきます。それが、企業としての存在意義と考えます。

エスペック地球環境研究・技術基金

タバイエスペック株式会社は1997年に創業50周年を迎えることができました。これを機に自らの社会的責任を全うする事業として、公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置。3,000万円の予算を計上、地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対して資金的援助を行っています。2000年度は4団体を援助、いままでに11団体の援助を行いました。今後も継続して社会に貢献します。



平成12年授与式



審査風景

エスペック地球環境研究・技術基金 過去の助成対象テーマ一覧

	研究代表者	所属	研究テーマ	助成金額
1998年 (第1回)	永野宏治	室蘭工業大学工学部情報工学科・助手	次世代エネルギー地熱エネルギー開発のための裂波3成分計測による地下き裂面の接触特性評価法	80万円
	笹谷康之	立命館大学理工学部土木工学科・助教授	自然エネルギー・省エネルギーシステムの市民への普及に関する研究	80万円
	島田浩章	東京理科大学基礎工学部生物工学科・助教授	多機能薬物物質代謝酵素の導入による環境浄化植物の創製	90万円
1999年 (第2回)	藤田藤樹夫	近畿大学農学部農芸化学科・教授	アポトーシス誘導を指標とした環境汚染化学物質の毒性評価法の確立に関する研究	50万円
	馬健鋒	香川大学農学部・助教授	植物の重金属超集積	80万円
	森圭子	京都大学大学院農学研究科・博士課程1回生	里山環境における森林の水保全機能の解明に関する研究	50万円
	米田稔	京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻・助手	衛星リモートセンシングを用いた地下水資源管理システムの開発	70万円
2000年 (第3回)	伊藤よしの	関西学院大学大学院総合政策研究科・修士課程	国際条約とこれに対応する国内法の制定(ラムサール条約をめぐる日本とデンマークの湿地の事例研究を通して)	60万円
	今井剛	山口大学工学部社会建設工学科・助教授	循環型社会実現のための有機性固形廃棄物の可溶化システムの開発	70万円
	片岡洋行	岡山大学薬学部・教授	性的二色性メダカを用いる内分泌攪乱化学物質のバイオアッセイ法の開発と環境分析への応用	50万円
	福原輝幸	福井大学工学部建築建設工学科・教授	灌漑に伴う土壌塩類集積	70万円



新エネルギー・太陽光発電の研究

宇都宮テクノコンプレックスには(1995年、NEDO新エネルギー・産業技術総合開発機構)から太陽光発電フィールドテスト事業の共同研究者として事業の委託を受け太陽光発電施設を設置しました。5年間の共同研究は完了しましたが太陽光発電の長期信頼性を研究するため、引き続き、基礎データの採取を実施しています。

また、この施設は工場への来客者・地域住民・近隣小中学校の見学などに、広く公開しています。環境の大切さを知っていただくひとつの機会として役立っています。



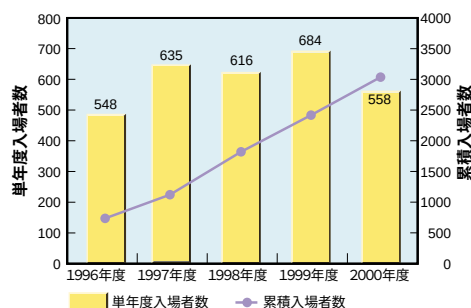
太陽光発電施設

フューチャーラボ(展示館)の運営

太陽光発電施設の隣には、UFOのような形をした「フューチャーラボ」を設置。環境の大切さを訴えるビデオの放映、パネル展示、環境関連文献、環境関連グッズの展示を行っています。実際に触っていただき・体験していただけます。この施設の運営は地元新聞をはじめ各種マスメディアに多く取り上げられ、見学者数も順調に増加しています。



フューチャーラボ(展示館)



フューチャーラボ内部

ソーラーカーレースへの参戦

クリーンエネルギーの太陽光発電。エスペックではソーラーカーレースを通じて、太陽光発電に関する基礎研究と社会への啓発を行います。

エスペックは、1997年以来、ワールドソーラーカーレースへの参戦を援助。1999年夏にはエスペックが技術・資金援助を行う、宇都宮高校が、フレッシュ部門優勝および技術賞を受賞。おおきな喜びとなりました。

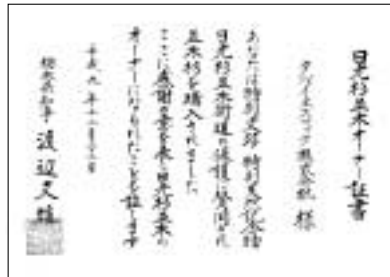
2000年は、エスペックとして参戦。「E-SPEC」号は、クラス3位に入賞することができました。この研究による早期の実用化の実現と、支援活動により、21世紀を担う若者たちが、環境への大切さ、環境との共存を少しでも体験してもらい、未来に活かしてもらえればと思います。





緑の保護活動

立ち枯れが進む日光杉並木。要因に環境汚染が挙げられています。エスペックグループは1997年より継続して日光杉並木の保全活動に参画。資金(1,000万円)を投入、日光杉並木オーナーとなり、県はその資金運用益により、杉並木の保全活動にあたっています。



郷土の森づくり

エスペックグループでは、社員のみの植樹・森林保全活動にとどまらず、より広範囲に、よりたくさんの方々に緑の大事さ、環境保全の必要性を知っていただくため、「郷土の森づくりを实践する会」を運営。

エスペックの社員・家族はもとより、仕入先、こどもたちと一体化して緑化・森づくりをしています。

その活動は、各種土地に対して自然の森、雑木林をよみがえらせるための植樹活動と植物に対する知識の修得。

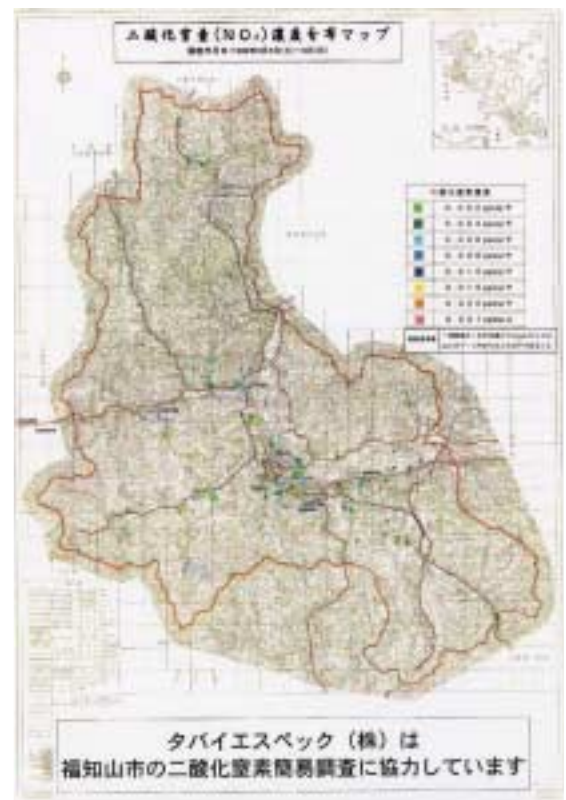
苗木の植え方も、あくまで自然に、その土地に適した苗木を植えています。(潜在自然植生)



地域の二酸化窒素測定

エスベックグループの主力工場である福知山工場にある京都環境計量センターでは、京都府福知山市が行う、「市民による二酸化窒素濃度測定」に無償協賛、市民がサンプリングした試料、200本を分析、値付けしています。

この活動は1999年に2回、2000年に1回、実施。市民の方々へ、大気の汚染状況、環境保全に対する意識付けに貢献しています。



こどもエコクラブへの援助

エスベックグループの主力工場、福知山工場では、従業員が持ち寄った家庭の余剰品で「リサイクルバザー」を実施。

この取り組みは過去3年間続いています。2000年度はこのバザーの収益金と従業員からの募金が一定額を越えたことを契機に、使途を検討、福知山市のこどもエコクラブへの援助を決定。こどもたちでも使用可能な環境分析・測定機器を購入、贈呈することにしました。ほんの小さな活動・社会貢献ですが、今後も続けていきます。





10 環境会計

エスペックグループでは、1999年、環境会計を導入いたしました。2000年度は環境省・環境会計ガイドラインに沿って、効果についても掲載しました。

集計範囲：(タバイエスペック株式会社、タバイエスペックサービス株式会社、株式会社タバイ環境設備)

対象期間：2000年4月1日～2001年3月31日

単 位：(千)円

環境保全コスト						
分 類		主な取組の内容	2000年度投資額	2000年度費用額	1999年度投資額	1999年度費用額
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト (事業エリア内コスト)		122,378	33,961	11,057	38,000
	内 訳					
	① 公害防止コスト	新設事業所における公害防止設備	14,556	5,863	2,890	6,058
	② 地球環境保全コスト	福知山工場内の空調照明対策工事、新設事業所での空調機器	98,167	10,148	8,167	8,338
	③ 資源管理コスト	新設事業所におけるリサイクルセンター	9,655	17,950	—	23,554
(2)	生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		—	520	—	560
(3)	管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	東京本部ISO14001認証取得	365	80,689	—	65,607
(4)	研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	研究開発費用	—	162,789	—	236,301
(5)	社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	各事業所での植栽、宇都宮テクノコンプレックス展示館改装	68,371	22,201	—	14,667
(6)	環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		—	—	—	—
合計			191,114	300,160	11,057	355,135

単 位：(千)円

項 目	内 容 等	2000年度実績	1999年度実績
当該期間の投資額の総額		1,877,746	482,435
当該期間の研究開発費の総額		1,263,269	1,194,108

単 位：(千)円

環境保全対策に伴う経済効果	
効果の内容	金 額
リサイクルにより得られた収入額	663
リサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	※1 3,935
省エネルギーによる費用削減	※2 25,535

※1:1999年度生産高原単位をベースに求めた2000年度生産高に対する廃棄物処理費用から、2000年度実際に要した廃棄物処理費用を差し引いた値。

※2:1999年度生産高原単位をベースに求めた2000年度生産高に対する電気代から、2000年度実際に要した電気代を差し引いた値。

環境保全効果					
環境負荷指標	廃 棄 物		環境負荷指標	省エネ(電力)	
	2000年度	1999年度		2000年度	1999年度
発生総量(トン)	41.4	46.0	発生総量(万kWh)	832.1	808.3
削減量(対前年比)(トン)	4.6	—	削減量(対前年比)(万kWh)	(23.8)	—
原単位(kg/億円)	113.0	154.4	原単位(万kWh/億円)	2.3	2.7
原単位での削減率(%)	27%	—	原単位での削減率(%)	16%	—

※()付きの値は増加分

11 環境負荷量

エスペックグループでは、法規制等の要求事項に関し自主管理基準を設定するとともに、測定・監視周期を増やす等を行い、自主管理の向上に努めています。

また今回より、環境省・環境報告書ガイドラインが記載を求める項目についても記載しました。

■水質管理

事業所	排水放流先	項目	法規制値※	自主基準	年平均	最大値	最小値
福知山工場	市下水処理場 ↓ 由良川	水温	45℃以下	30℃以下	19.0	27.8	7.8
		pH	5.7-8.6	6.4-8.0	7.4	8.0	6.6
		COD	300mg/ℓ以下	40mg/ℓ以下	36.4	71.0	11.0
		SS	300mg/ℓ以下	80mg/ℓ以下	34.6	93.0	3.0
		n-ヘキサン	5mg/ℓ以下	4mg/ℓ以下	1.1	3.0	0.5
		全クロム	1mg/ℓ以下	0.2mg/ℓ以下	<0.01	<0.01	<0.01
		D-Fe	5mg/ℓ以下	1mg/ℓ以下	0.03	0.06	<0.01
		D-Mn	5mg/ℓ以下	1mg/ℓ以下	0.02	0.04	<0.01
宇都宮 テクノコンプレックス	工業団地共同排水処理場 ↓ 鬼怒川	水温	40℃未満	35℃以下	21	30	11.5
		pH	5.8-8.6	6.1-7.9	6.6	7.2	6.2
		BOD	20mg/ℓ以下	10mg/ℓ以下	2.5	9.4	0.5
		COD	20mg/ℓ以下	18mg/ℓ以下	10.8	18.0	2.8
		SS	40mg/ℓ以下	20mg/ℓ以下	1.7	5.0	1.0
タバイ環境設備	北河内広域下水処理場 ↓ 寝屋川	水温	45℃未満	35℃未満	20.5	29.0	8.0
		pH	5.0-9.0	6.1-8.3	7.1	7.5	6.7
		BOD	600mg/ℓ以下	200mg/ℓ以下	49	150	0.6
		SS	600mg/ℓ以下	200mg/ℓ以下	24	41	1
		n-ヘキサン	5mg/ℓ以下	4mg/ℓ以下	1.1	2.3	0.5

※法規制値は、法、都道府県条例、市町村協定、地区協定より最も厳しい値を記載

■騒音

事業所	昼間			夜間		
	法規制値※	自主基準	最大値	法規制値※	自主基準	最大値
福知山工場	70	65	59	55	50	50
宇都宮テクノコンプレックス	65	65	55	50	50	45
タバイ環境設備	70	68	61	60	58	51

※法規制値は、法、都道府県条例、市町村協定、地区協定より最も厳しい値を記載

単位: (dB)

■環境省・環境報告書ガイドラインが求める記載事項(本文内記載済事項を除く)

分類	項目		実績
エネルギー	再生資源・再生部品投入量		0.82t
大気	悪臭の発生状況	福知山工場	検知外(臭気判定士による)
		宇都宮テクノコンプレックス	検知外(臭気判定士による)
		タバイエスペックサービス	検知外(臭気判定士による)
		タバイ環境設備	検知外(臭気判定士による)
		東京本部	検知外(臭気判定士による)
		本社	検知外(臭気判定士による)
		神戸テクノコンプレックス	検知外(臭気判定士による)
製品	環境負荷低減に資する製品・サービス等の生産・販売量または比率		61.5%(販売額比率)
	総製品生産重量		2,895t
	販売製品の有害物質含有量	第一種	1.1t(鉛:はんだ)
		第二種	—
	容器・包装		(法対象外)
	製品群毎の平均耐用年数		10年(機種平均)
	製品群毎の再使用・再生使用可能部分の比率		90(%)重量比・機種平均 ※内、熱回収:12%(重量比)＜エスペックリサイクルシステム＞
	製品群毎の解体時間		1.8時間(機種平均)＜エスペックリサイクルシステム＞
土地利用	エコマーク等の環境ラベル認定製品の生産・販売量		—
	自然地域の改変面積		3.2ha(神戸テクノコンプレックス建設)
	緑化・植林・自然修復面積及びその拡大対策		・水辺づくり:0.73ha(52件) ・森づくり:4.30ha(21件) 277,800本植樹
加盟または支援する環境保全に関する団体(NPO、業界団体)			地球環境大賞憲章制度
環境保全に関するNPOへの寄付金、支援額			3,950万円



12 エスベックグループの環境年表

1960年代

1969年

- ・恒温恒湿器に複数の冷凍機を搭載し、省エネを実現

1970年代

1974年

- ・無公害工業団地・長田野工業団地に工場建設

1980年代

1983年

- ・省エネを基本設計思想とした本社ビルを建設

1987年

- ・国際地球科学会議・テレビシンポジウムを協賛
- ・民間と植物工場の業務提携

1988年

- ・会社組織に植物工場プロジェクトを設置

1990年代

1990年

- ・国際花と緑の博覧会の芙蓉ミュージカルシアターと三和みどり館に協賛

1991年

- ・株式会社新産業創造センター（TRT）の設立に参加

1992年

- ・会社組織にフロン対策室を設置するとともに、CFCフロン全廃のための製品開発・技術開発に着手
- ・代替フロンのプリント基板洗浄剤に転換完了
- ・代替フロンの断熱材発泡に転換完了
- ・新産業創造センター（TRT）内に「鳥取アグリラボ」を開設

1993年

- ・コンテナ式植物工場が植物工場学会より開発賞を受賞



1994年

- ・福知山工場が省エネルギーの電気部門において近畿通産局長賞を受賞
- ・代替フロンのフロンに全製品転換完了

1995年

- ・環境管理部創設
- ・NEDOとの太陽光発電フィールドテストを開始



1996年

- ・エスベックグループ環境基本方針を制定
- ・京都環境計量センターを開設、環境計量証明事業を開始



- ・宇都宮テクノコンプレックス内にフューチャーラボ竣工
- ・ISO14001認証取得（福知山工場）

1990年代

1997年

- ・ISO14001認証取得（宇都宮テクノコンプレックス）
- ・ISO14001認証取得（タバイエスペックサービス本社事業所）
- ・エコシステム事業推進室を設置
- ・エスペックグループ環境強化週間の運営開始
- ・中国での合併会社の設置による浄水器の開発・販売

1998年

- ・公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置
- ・ISO14001認証取得（タバイ環境設備大東事業所）
- ・環境報告書「エスペック環境マネジメントレポート」（1997年度報告）発行
- ・エスペック環境管理セミナーを開催。約200社受講



1999年

- ・プラチナスKシリーズ3機種が「第19回優秀省エネルギー機器表彰」を受賞



- ・環境報告書「エスペック環境マネジメントレポート」（1998年度報告）発行
- ・環境会計導入
- ・仕入先への環境管理活動指導・支援開始
- ・エスペック環境管理セミナーを開催。約100社受講
- ・「グリーン調達」を構築開始

2000年代

2000年

- ・エスペックグループ全社環境基本方針改訂
- ・第2期環境管理中期計画制定
- ・環境マネジメントレポート2000発行
- ・グリーン調達開始



- ・ISO14001認証取得（東京本部、廣州爱斯佩克環境儀器有限公司）

環境省－環境報告書ガイドライン（2000年度版）への対応

2001年2月に発行された、環境省・環境報告書ガイドライン（2000年度版）。今回の環境マネジメントレポートは、これに沿って作成しました。ガイドラインが求める内容に対する対応結果は、下の表の通りです。

			対応	掲載頁				
2. 基本的項目	1) 経営者緒言	重	環境問題の現状、事業活動における環境保全への取組の必要性、及び将来的な持続可能な環境保全型社会のあり方等についての認識	○	12・13			
			自らの業種、規模、事業特性等に応じた顕著な環境側面及びそれに対する取組の方針、目標	○	12・13			
			環境情報開示に関する基本的姿勢	○	12・13			
			上記に関する社会に対しての誓約	○	12・13			
		望	経営責任者等の署名	○	12・13			
			自らの環境保全への取組状況に対する成果、目標の達成状況、今後の課題等の具体的内容	○	12・13			
	2) 報告にあたっての基本的要件（対象組織・期間・分野、作成部署・連絡先）	重	報告対象組織（工場、事業所、子会社等の範囲、連結決算対象組織との異同、全体を対象としない場合は、全体を対象とするまでの予想スケジュール等を記載する）	○	10			
			報告対象期間、発行日及び次回発行予定（なお以前に環境報告書を発行している場合は、直近の報告書の発行日も記載する。）	○	10			
			報告対象分野（環境以外の分野を含んでいる場合はその内容）	○	10			
			作成部署及び連絡先（電話番号、FAX番号、電子メールアドレス等も記載する。）	○	55			
		望	アンケートあるいは返信用はがき等を添付し、質問に答える旨の記述等、何らかのフィードバックの手段について記載する。	○	挟み込み			
			ホームページのアドレス	○	54			
			世界の各地域又は国内の各支店毎の問い合わせ先	○	57			
			主な関連公表資料の一覧及び概要（会社案内、有価証券報告書、環境パンフレット、技術パンフレット、従業員向けマニュアル等の主な関連資料の一覧とその概要、入手方法）	○	56			
	3) 事業概要等	重	事業の具体的内容、主要な製品・サービスの内容（事業分野等）	○	2～7			
			全社的な経営方針等	○	14			
			本社の所在地	○	2・3・57			
			工場・事業所数、主要な工場・事業場の所在地及びそれぞれの生産品目	○	2・3・57			
			従業員数（少なくとも過去3年程度を記載する。）	○	3			
			売上高又は生産高（少なくとも過去3年程度を記載する。）	○	3			
		望	事業者の変革及び環境保全への取組の歴史等の概要	○	50～51			
			主な事業地域及び販売地域（主要な原材料の採掘、調達、営業や販売活動を行なっている地域について、日本国内だけでなく、海外もか、特定地域のみか等を記載する。）	△	2・3			
			対象市場や顧客の種類（小売、卸売り、政府等）	△	2～7			
			報告対象期間中に発生した、組織の規模や構造、所有形態、製品・サービス等における重大な変化の状況（合併、分社化、新規事業分野への進出、工場等の建設等の変化があった場合）	○	8～9			
			その他報告対象組織の活動規模に関する情報（総資産額、利益額、床面積等）	○	2			
			3. 環境保全に関する方針・目標及び実績等の総括	1) 環境保全に関する経営方針・考え方	重	環境保全に関する経営方針・考え方（事業内容や製品・サービスの特性や規模、また、事業活動に伴う環境負荷等に対応して適切なものであること）	○	12・13・16・17
						制定時期、制定方法、全体的な経営方針等との整合性及び位置付け	○	12・13
望	環境保全に関する経営方針が意図する具体的内容、将来ビジョン、制定した背景等に関するわかりやすい解説	○			12・13・16			
2) 環境保全に関する目標、計画及び実績等の総括	重	同意する（遵守する）環境に関する意章、協定等の名称と内容		—				
		環境保全に関する中長期目標、当期及び次期対象期間の目標（事業特性、規模等に対応して適切なものであること）	○	22・23				
		中長期目標については、制定時期、基準とした時期、対象期間	○	22・23				
		環境保全に関する中長期目標、当期及び次期対象期間の目標に対応した計画	○	22・23				
		環境保全に関する中長期目標、当期及び次期対象期間の目標に対応した、報告対象期間の環境負荷の実績、環境保全への取組の概要等の総括データ	○	22・23・28・29				
		環境負荷の実績及び環境保全への取り組み結果等に対する評価	○	22・23				
		基準とした時期のデータ	○	30・31				
	望	環境報告書全体の概要（サマリー・要約）及びそれぞれの内容の対応ページ	○	22・23				
		事業内容、製品・サービスの特性に応じた環境保全への取組の課題	○	32				
		報告対象期間における特徴的な取組	○	8・9				
		前回の報告時と比べて追加・改善した取組等	○	8・9 他				
3) 環境会計情報の総括	重	環境会計情報に係る集計範囲、対象期間の基礎情報	○	48				
		環境保全コスト及び主な取組の内容	○	48				
		環境保全対策に係る効果（環境保全効果及び環境保全対策に伴う経済効果）	○	48				
		環境会計情報の集計に採用した方法等の補足情報	○	48				
		環境省「環境会計システムの導入のためのガイドライン」に準拠している場合には、その旨の記載	○	48				
4. 環境マネジメントに関する状況	1) 環境マネジメントシステムの状況	重	全社的な環境マネジメントシステムの構築及び運用状況（システムの説明を含む）	○	16・17			
			全社的な環境マネジメントの組織・体制の状況（それぞれの責任、権限、組織の説明を含む）及びその組織・体制図	○	20			
			ISO14001の外部認証を取得している場合には、取得している事業所の数、割合（全従業員数に対する認証取得事業所等の従業員数の割合等）、認証取得時期	○	18・10			
			環境保全に関する従業員教育等の実施状況	○	25			
			想定される緊急事態の内容と緊急時対応の状況	○	26			
			環境影響の監視、測定の実施状況	○	49			
		望	環境マネジメントシステムの監査の基準、実施状況、監査結果及びその対応方法等	○	24			
			環境マネジメントシステムの全体像を示すフロー図	○	—			
			環境活動評価プログラムに参加登録している事業所の数及び割合	—	—			
			環境保全に関する従業員教育等の実施状況の定量的情報（教育等を受けた従業員の数、割合、従業員1人当たりの年間平均教育時間数等）	○	25			
	2) 環境保全のための技術、製品・サービスの環境適合設計（DfE）等の研究開発の状況	重	環境保全のための技術、製品・サービスの環境適合設計（DfE）等の研究開発の状況	○	32～34			
		望	LCA（ライフサイクルアセスメント）手法を用いた研究開発の状況	○	21			
		3) 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	重	環境報告書、環境ラベル等による環境情報開示及び利害関係者とのコミュニケーションの実施状況	○	41		
	望		主要な利害関係者との協議等の状況（例えば調査の実施、地域住民との懇談会、定期的な訪問や報告、取引先との懇談会、ニュースレターなどによるコミュニケーションなどの状況と種別ごとの協議回数）	○	41			
	4) 環境に関する規制遵守の状況	重	事業活動に即して、どのような環境法規の、どのような規制を受け、それにどのように対応しているのか等の状況	○	49			
			過去5年以内に法令等の違反及び事故があった場合は、その違反及び事故の内容、原因、対応策	△	11			
			環境に関する罰金、科料等の金額、件数	—				
	5) 環境に関する社会貢献活動の状況	重	環境関連の訴訟を行なっているまたは受けている場合は、その内容及び件数	—				
			事業者又は従業員による環境に関する社会貢献活動の状況	○	43～47			
			望	加盟又は支援する環境保全に関する団体（NPO、業界団体）	—			
			環境保全に関するNPOへの寄付金、支援額	○	49			

			対応	掲載頁				
5. 環境負荷の低減に向けた取組の状況	1) 環境負荷の全体像 (事業活動のライフサイクル全体を踏まえた把握、評価)		重	自らの環境負荷の全体像(事業活動のライフサイクル全体を踏まえた把握・評価<主要な物質、項目のインプット、アウトプットを示す記述>)		○	28~29	
			望	主要な物質、項目のインプット、アウトプットを定量的に示すフロー図		○	28~29	
	2) 物質・エネルギー等のインプットに係る 環境負荷の状況及びその低減対策		重	①総物質投入量及びその低減対策	○	28・29		
				②事業者内部での物質の循環的利用量及びその増大対策	○	28・29		
				③総エネルギー消費量及びその低減対策	○	28・29		
				④再生可能なエネルギー消費量及びその増大対策	○	28・29		
				⑤水利用量及びその低減対策	○	28・29		
				⑥事業者内部での水の循環的利用量及びその増大対策	○	28・29		
			業	再生資源・再生部品投入量及びその転換対策	○	49		
				有害物質投入量及びその低減対策	○	35		
	3) 事業エリアの上流(製品・サービスの購入)での 環境負荷の状況及びその低減対策		重	①グリーン購入(環境負荷低減に資する製品・サービス等の優先的購入)の状況		○	42・24	
				②エコマーク等の環境ラベル認定製品その他の環境負荷低減に資する製品の購入量又は比率		○	42	
	4) 不要物等のアウトプットに 係る環境負荷の状況及び その低減対策		重	①温室効果ガス排出量及びその低減対策。※留意点あり		○	28~29	
				②オゾン層破壊物質排出量及びその低減対策。※留意点あり		○	28~29	
			業	SOx排出量及びその低減対策		○	49	
				NOx排出量及びその低減対策		○	49	
				VOCs排出量及びSの低減対策		○	49	
				PRTR対象物質排出量及びその低減対策		○	49	
				排出規制項目(SOx,NOx,ばいじん、ダイオキシン類等)の排出濃度及びその低減対策		○	49	
				排出抑制物質(ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)の排出濃度及びその低減対策		○	49	
				騒音、振動の発生状況及びその低減対策		○	49	
				悪臭の発生状況及びその低減対策		○	49	
			重	総排水量(m ³)及びその低減対策		○	28~29	
				PRTR対象物質排出量及びその低減対策		○	49	
				COD、窒素、燐の排出量及びその低減対策		○	28・29	
				排水規制項目の排出濃度及びその低減対策		○	49	
			業	①廃棄物等の総排出量(t)及びその低減対策		○	28・29	
				②再利用される循環資源の量(t)及びその増大対策		○	28・29	
				③再生利用される循環資源の量(t)及びその増大対策		○	28・29	
				④熱回収される循環資源の量(t)及びその増大対策		○	28・29	
				重	⑤焼却処理される廃棄物の量(t)及びその低減対策		○	28・29
					⑥最終処分される廃棄物の量(t)及びその低減対策		○	28・29
				業	有害廃棄物排出量(t)及びその低減対策		○	28・29
					PRTR対象物質の廃棄物移動量及びその低減対策		○	49
	5) 事業エリアの下流(製品・サービス等の提供) での環境負荷の状況及びその低減対策		重	①製品・サービス等の特性に応じた環境負荷の状況及び環境負荷低減対策		○	32	
				②環境負荷低減に資する製品・サービス等の生産・販売量又は比率及びそれを高めるための取組状況		○	49	
			業	使用時環境負荷―製品群毎のエネルギー消費効率及びその向上対策		―		
				使用時環境負荷―省エネ法判断基準適合製品の比率及びその増大対策		―		
				廃棄時環境負荷―総製品生産重量及びその低減対策		○	38	
				廃棄時環境負荷―有害物質含有量及びその低減対策		○	49	
廃棄時環境負荷―容器・包装使用量及びその低減対策				○	49			
廃棄時環境負荷―製品群毎の平均耐用年数及びその増大対策				○	49			
廃棄時環境負荷―製品群毎の再使用・再生利用可能部分の比率及びその拡大対策				○	38			
廃棄時環境負荷―製品群毎の解体時間及びその短縮対策				○	49			
廃棄時環境負荷―使用済み製品、容器・包装の回収量及びその増大対策				○	38			
廃棄時環境負荷―回収された使用済み製品、容器・包装の再利用、再生利用量、熱回収量及び比率、及びその増大対策				○	38			
総合的評価―エコマーク等の環境ラベル認定製品の生産・販売量又は比率及びその増大対策		―						
6) 輸送に係る環境負荷の状況及び その低減対策		重	①総輸送量(t×km)及びその低減対策		○	28		
			②輸送に伴うCO ₂ 排出量及びその低減対策		○	28		
		業	輸送に伴うNO _x 排出量及びその低減対策		○	42		
低公害車、低燃費車の導入台数又は比率及びその増大対策			―					
7) ストック汚染、土地利用、その他の環境リスク等 に係る環境負荷の状況及びその低減対策		業	土壌・地下水汚染の状況及びその低減対策		○			
			自然地域の改変面積及びその縮小対策		○	49		
			緑化・植林・自然修復面積及びその拡大対策		○	9・49		
			事故件数及び内容(漏出物質名、状況、量等)		○	26		
			有害物質保有量及び低減対策		―			

重:重要な記載事項

望:可能であれば記載することが望ましい内容

業:業態により重要となる記載事項

環境マネジメントレポートの旧版についても準備させていただいてます。ご用命ください。

ESPEC環境マネジメントレポート 97



1998年6月発行

ESPEC環境マネジメントレポート
(1998年度報告)



1999年6月発行

ESPEC環境マネジメントレポート2000



2000年6月発行

環境報告は弊社ホームページでも公開しています。

[URL://www.espec.co.jp](http://www.espec.co.jp)



編集後記

エスベックグループの環境報告書として4冊めにあたる、「ESPEC環境マネジメントレポート2001」。いかがだったでしょうか？

今回も、環境管理部自ら制作にあたりましたが、環境省「環境報告書ガイドライン（2000年版）」に可能な限り準じながら、定めた期限内に発行することができました。旧版と比較して、改善した項目は以下のとおりです。

項 目		改 善 点
会社概要		・旧版はエスベックグループの環境報告書ですが、「タバイエスベック株式会社」の記述でしたので、エスベックグループとしての記述に改めました。
製品及び事業		・旧版において「環境改善事業」を「環境パフォーマンス」の章に含めていましたが「事業」であるため、企業概要に含めました。
トピックス		・新規掲載。2000年度の主な動きをトピックスとして表現しました。
環境マネジメントレポートの対象範囲		・対象事業所、従業員比率などを明確にしました。
第1章 緒言	1.経営者の声明	・環境報告書ガイドラインが求める内容を意識したこととしました。
	2.経営理念	(継続掲載)
第2章 環境マネジメントシステム	1.エスベックグループの活動概念	・新規掲載。弊社グループの考える概念を図で表現しました。
	2.エスベックグループの全社環境基本方針	(継続掲載)
	3.ISO14001	・旧版において「環境マネジメント活動=ISO14001取得」といった表現となっていましたので改めました。
	4.環境マネジメント体制・組織・責任	・責任と権限および人員構成を記述しました。
	5.事業活動と製品・サービスの環境影響評価	(継続掲載)
	6.法規制およびその他の要求事項	(継続掲載)
	7.目標と実績概要	・旧版においては目標値のみの記述でしたが、実績概要、自己評価も記述しました。
	8.仕入先への対応	・環境マネジメントシステム構築支援に関する機記述を追記しました。
	9.環境マネジメントシステム監査	・内部監査、外部審査結果(件数)を記述しました。
	10.教育	・「家族を含めた啓発」について追記しました。
	11.緊急事態への準備	・想定する緊急事態の内容を追記しました。
	12.営業環境マネジメント活動	・新規掲載。営業部門での活動を紹介しました。
第3章 環境パフォーマンス	1.物質フロー	・環境報告書ガイドラインが求める主要項目も記述しました。 ・「リサイクルルート」を表現し、そこに資源リサイクル量などを記述しました。
	2.主要項目推移	(継続掲載)
	3.製品への取り組み	(継続掲載)
	4.生産活動・物流への取り組み	・PRT法対象物質の移動量を記述しました。
	5.サービスへの取り組み	(継続掲載)
	6.製品リサイクルへの取り組み	・製品回収・リサイクル台数、重量を記述しました。
	7.広報・啓発・コミュニケーション活動	・鉛フリーはんだに関する取り組みを記述しました。 ・社内表彰制度実績を記述しました。 ・コミュニケーション件数の内訳についても記述しました。 ・アンケート回答によりいただいたご指摘事項への対応表を記述しました。
	8.オフィスにおける環境保全活動	(継続掲載)
	9.社会貢献	・エスベック地球環境研究・技術基金助成一覧を掲載しました。 ・故郷の森づくり、地域の二酸化窒素測定、こどもエコクラブへの助成について新規掲載しました。
	10.環境会計	・効果についても記述しました。
	11.環境負荷計量	・環境省「環境報告書ガイドライン」が求める項目について、可能な限り記述しました。
	12.エスベックグループの環境年表	(継続掲載)
環境省「環境報告書ガイドライン（2000年度版）」への整合		新規掲載。環境省「環境報告書ガイドライン（2000年度版）」との整合度を表にまとめました。
既刊環境報告書、ホームページURL		新規掲載。既刊環境報告書、URLの紹介を記述しました。
編集後記		(継続掲載)
エスベックグループのパンフレット類		新規掲載。入手方法も記述しました。
事業所一覧		新規掲載
アンケート用紙(挟み込み)		旧版は切り取り式であったのを、利用しやすいよう、挟み込みにしました。
その他		紙質(坪重量)を改善しました。(127.9g/m ² →104g/m ²)

この環境報告書に関するご意見、ご感想、ご質問などにつきましては、下記までご連絡願います。

タバイエスベック株式会社

環境管理部 EM推進グループ マネージャ 余田英則(よでんひでのり)

〒620-0853 京都府福知山市長田野町1-7 電話:0773-27-3131 FAX:0773-27-7131

E-MAIL:h-yoden@espec.co.jp



会社案内



製品総合カタログ



ESPEC技術情報



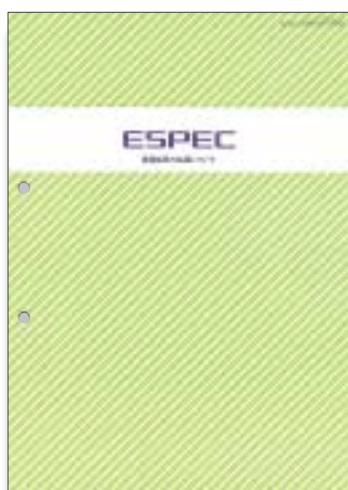
環境事業への取り組み



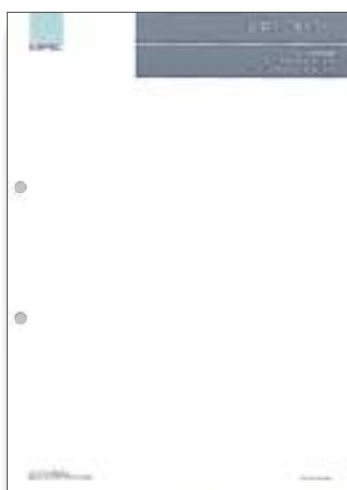
水処理システム



環境測定／分析システム



廃棄製品の処理について



託験のご案内



環境保全・プラチナKシリーズでの取り組み

エスペックグループでは、上記以外にも多数パンフレットを取り揃えております。右ページの各営業所などにお申しつけください。
ISO14001登録証のコピー送付、会社見学につきましても同様です。
各事業所の環境マネジメントマニュアル、その他環境マネジメント文書類につきましては、環境管理部までご連絡ください。

アンケートにご協力ください

Q1

本レポートにてエスペックグループの環境問題への取り組みについて、どのように感じられましたか。
(ひとつだけ○印をつけてください)

- 1.かなり評価できる 2.まあ評価できる 3.あまり評価できない 4.まったく評価できない

上記のように感じられたのは、どのような理由からですか。具体的にお聞かせください。

[]

Q2

本レポートの内容のうち、特に印象に残ったこと・参考になったと思われる項目はございますか。
(いくつでも○印をつけてください)

- | | | |
|--------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 企業概要 | 5.事業活動と製品・サービスの環境影響評価 | 4.生産活動・物流への取り組み |
| 製品及び事業 | 6.法規制およびその他の要求事項 | 5.サービスへの取り組み |
| 2000年度トピックス | 7.目標と実績概要 | 6.製品リサイクルへの取り組み |
| 環境マネジメントレポートの対象範囲 | 8.仕入先への対応 | 7.広報・啓発・コミュニケーション活動 |
| (第1章. 緒言) | 9.環境マネジメントシステム監査 | 8.オフィスにおける環境保全活動 |
| 1.経営者の声明 | 10.教育 | 9.社会貢献 |
| 2.経営理念 | 11.緊急事態への準備 | 10.環境会計 |
| (第2章. 環境マネジメントシステム) | 12.営業環境マネジメント活動 | 11.環境負荷量 |
| 1.エスペックグループの環境マネジメント活動概念 | (第3章. 環境パフォーマンス) | 12.エスペックグループの環境年表 |
| 2.エスペックグループ全社環境基本方針 | 1.物質フロー | |
| 3.ISO14001 | 2.主要項目推移 | |
| 4.環境マネジメント体制・組織・責任 | 3.製品への取り組み(開発設計段階での取り組み) | 環境省・環境報告書ガイドライン(2000年度版)への対応 |
| | | 編集後記 |

具体的にどんなことが印象に残ったかお聞かせください。

[]

Q3

本レポートの内容で、もっと詳しく知りたいと思われた項目がありましたか。
上記Q2の項目からいくつでも選んでお聞かせください。

[]

Q4

環境問題への取り組みについて、エスペックグループになにを期待されますか。具体的にお聞かせください。

[]

Q5

当社グループから回答を必要とする内容がございましたら、ご記入ください。

[]

回答手段: ☐ 郵送

- ☐ 電話 (電話番号 - -)
- ☐ FAX (FAX番号 - -)
- ☐ Eメール(メールアドレス)

Q6

恐れいますが、あなたが本レポートをお知りになったきっかけをお聞かせください。
(○印をつけてください)

- | | | |
|---------------------|--------------------|-------------------|
| 1.タバイエスペックの営業担当 | 2.タバイエスペックの代行店・販売店 | 3.タバイエスペックのホームページ |
| 4.環境管理セミナーなどで聞いた | 5.展示会 | 6.エスペック技術情報誌 |
| 7.その他 (具体的に:) | | |

■資料送付希望

- ☐ ESPEC環境マネジメントレポート 97 ☐ ESPEC環境マネジメントレポート1998年度報告
- ☐ ESPEC環境マネジメントレポート2000 ☐ その他資料()

■アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。粗品を送付させていただきます。
差しつかえなければ、あなたご自身についてお聞かせください。

お名前	(フリガナ)	性別	1.男性 2.女性	ご年齢	歳
ご住所	〒				
☐ 企業・環境担当 ☐ 企業・一般 ☐ 官公庁 ☐ 自然保護団体・推進者 ☐ 一般消費者 ☐ 金融・証券会社 ☐ マスコミ・出版 ☐ 大学・学校等 ☐ 弊社グループの株主 ☐ 地域住民 ☐ その他()					
ご職業 勤務先		部署・ 役職名		エスペック 製品のご利用	1.使用している 2.使用していない

事業所住所一覧

会社名	事業所名	郵便番号	住 所	電話番号	FAX番号
タバイエスベック(株)	本社	530-8550	大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6	06-6358-4741	06-6358-5500
	東京本部	136-0074	東京都江東区東砂 8-5-1	03-5633-7290	03-5633-7303
	東京本部横浜オフィス	240-0005	神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 134 横浜ビジネスパーク・ウエストタワー8F	045-336-6410	045-336-6411
	仙台営業所	981-3135	宮城県仙台市泉区八乙女中央 2-2-22	022-218-1891	022-218-1894
	さいたま営業所	331-0852	埼玉県さいたま市桜木町 4-782-1	048-643-1918	048-645-1597
	つくば営業所	305-0035	茨城県つくば市松代 1-11-10	0298-54-7805	0298-54-7785
	東京営業所	136-0074	東京都江東区東砂 8-5-1	03-5633-7291	03-5633-7303
	日野営業所	191-0016	東京都日野市神明 3-10-5 エスプリ日野 1F	042-584-2175	042-584-2124
	横浜営業所	240-0005	神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 134 横浜ビジネスパーク・ウエストタワー8F	045-336-6410	045-336-6411
	松本営業所	390-0852	長野県松本市島立 647-2 山田ビル 1F	0263-48-0401	0263-48-0410
	静岡営業所	422-8034	静岡県静岡市高松 1-6-23	054-237-8000	054-238-3441
	名古屋営業所	465-0092	愛知県名古屋市中東区社台 3-81-2	052-777-2551	052-777-2575
	金沢営業所	920-0026	石川県金沢市西念町 115街区 9 NYビル1F	076-260-8030	076-260-8033
	大阪営業所	530-8550	大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6	06-6358-4746	06-6358-5500
	広島営業所	731-0103	広島県広島市安佐南区緑井 1-12-25	082-830-5211	082-876-5050
	新居浜営業所	792-0812	愛媛県新居浜市坂井町 3-5-35 村上ビル 1F	0897-41-3163	0897-43-1139
	福岡営業所	812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田 1-28-16 コスモブレインビル E室	092-471-0932	092-474-3500
	福岡山工場	620-0853	京都府福知山市長田野町 1-7	0773-27-3131	0773-27-1132
	宇都宮テクノコンプレックス	321-3231	栃木県宇都宮市清原工業団地 23-1	028-667-8730	028-667-8733
	寝屋川技術センター	572-0039	大阪府寝屋川市池田 3-11-17	072-826-6961	072-826-7131
	神戸テクノコンプレックス	651-1514	兵庫県神戸市北区鹿の子台南町 5-2-5	078-951-0960	078-951-0967
タバイエスベックサービス(株)	本社	572-0072	大阪府寝屋川市太間東町 23-12	072-834-1191	072-834-7755
	仙台 ブランチ	981-3135	宮城県仙台市泉区八乙女中央 2-2-22	022-218-1891	022-218-1894
	宇都宮 ブランチ	321-3231	栃木県宇都宮市清原工業団地 23-1	028-667-8734	028-667-8733
	さいたま ブランチ	331-0852	埼玉県さいたま市桜木町 4-782-1	048-643-1918	048-640-5807
	つくば ブランチ	305-0035	茨城県つくば市松代 1-11-10	0298-54-7805	0298-54-7785
	高崎 ブランチ	370-0841	群馬県高崎市栄町 12-16 メゾンサンボル 101	027-320-8571	027-320-8573
	千葉 ブランチ	263-0051	千葉県千葉市稲毛区園生町 393 鈴木ビル1F	043-286-6020	043-286-6022
	東京 ブランチ	146-0083	東京都大田区千鳥 1-11-4	03-3752-8601	03-3752-8625
	日野 ブランチ	191-0016	東京都日野市神明 3-10-5 エスプリ日野 1F	042-584-2175	042-584-2124
	厚木 ブランチ	259-1117	神奈川県伊勢原市東成瀬 36-5	0463-94-9433	0463-94-6542
	横浜 ブランチ	234-0051	神奈川県横浜市港南区日野 2-22-9	045-847-2696	045-847-2619
	松本 ブランチ	390-0852	長野県松本市島立 647-2 山田ビル 1F	0263-48-0401	0263-48-0410
	静岡 ブランチ	422-8034	静岡県静岡市高松 1-6-23	054-237-8000	054-238-3441
	名古屋 ブランチ	465-0092	愛知県名古屋市中東区社台 3-81-2	052-777-2551	052-777-2575
	津 ブランチ	514-0104	三重県津市栗真小川町 620	059-233-5400	059-233-5411
	金沢 ブランチ	920-0026	石川県金沢市西念町 115街区 9 NYビル1F	076-260-8030	076-260-8033
	大阪 ブランチ	572-0072	大阪府寝屋川市太間東町 23-12	072-834-1191	072-834-7755
	京都 ブランチ	615-0046	京都府京都市右京区西院西崎崎町 8	075-311-8081	075-311-6305
	滋賀 ブランチ	520-3234	滋賀県甲賀郡甲西町中央 1-44-1 市兵衛ビル1F	0748-72-8077	0748-72-5070
	兵庫 ブランチ	658-0045	兵庫県神戸市東灘区御影石町 2-14-17 1F	078-841-4085	078-822-4689
	姫路 ブランチ	672-8048	兵庫県姫路市飾磨区三宅 1-192 田中興産ビル 4F	0792-22-8461	0792-22-8490
	広島 ブランチ	731-0103	広島県広島市安佐南区緑井 1-12-25	082-830-5211	082-876-5050
	新居浜 ブランチ	792-0812	愛媛県新居浜市坂井町 3-5-35 村上ビル 1F	0897-41-3163	0897-43-1139
	福岡 ブランチ	812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田 1-28-16 コスモブレインビル E室	092-471-0932	092-474-3500
TABAI ESPEC SERVICE CORP.	タイ駐在事務所 《Thai Representative office.》		451 Sirinthorn Rd. Bangbunru, Bangkok 10700, Thailand c/o: SITHIPORN ASSOCIATES CO., LTD.	66-2-881-1637	66-2-433-1679
	台湾駐在員事務所		9 th Fl., 57, SEC. 3, Chung Shan N. Rd., Taipei, Taiwan.	886-22-595-3355	886-22-596-4871
(株)タバイ環境設備	本社	574-0052	大阪府大東市新田北町 5-45	072-873-7551	072-875-3070
(株)タバイエスベック京都	本社	615-0046	京都府京都市右京区西院西崎崎町 8	075-315-1232	075-311-6305
(株)タバイエスベック京都	滋賀営業所	520-3234	滋賀県甲賀郡甲西町中央 1-44-1 市兵衛ビル1F	0748-72-5077	0748-72-5070
(株)タバイエスベック兵庫	本社	658-0045	兵庫県神戸市東灘区御影石町 2-14-17 1F	078-822-4645	078-822-4689
(株)タバイエスベック販売	京都事業所	604-8845	京都府京都市中京区壬生東高田町 2-1-202	075-325-2974	075-325-2975
(株)タバイ理工	本社	530-8550	大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6	06-6358-4741	06-6358-5500
(株)アポロメック	本社	658-0053	兵庫県神戸市東灘区住吉宮町 5-10-18	078-811-3211	078-841-8329
エスベックオリゴサービス(株)	本社	305-0024	茨城県つくば市倉掛 1174-4	0298-51-8461	0298-51-8460
(株)エスベックミック	本社	480-0138	愛知県丹羽郡大口町大御堂 1-233-1	0587-95-6369	0587-95-4833
ESPEC CORP.			425 Gordon Industrial Court, S.W Grand Rapids, MI 49509, U.S.A.	1-616-878-0270	1-616-878-0280
ESPEC CORP.	サンホセ事務所		442 Reynolds Cir., San Jose, CA 95112	1-408-441-6880	1-408-441-6881
ESPEC (MALAYSIA) SDN.BHD.			No.10-1, Jalan Dagang SB 4/2, Taman Sungai Besi Indah, Off Jalan Sungai Besi, 43300 Seri Kembangan, Selangor Darul Ehsan, Malaysia	60-3-89451377	60-3-89451287
塔巴依爱斯佩克環境儀器(上海)有限公司《TABAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT (SHANGHAI) CO., Ltd.》		200122	Flr. No.489 Pudian Road You You Yangiao Building Pudong New Area, Shanghai, China 中国上海市浦东新区浦電路489号 自由燕橋大廈1楼	86-21-58303322	86-21-58661781
爱斯佩克有限公司《ESPEC (CHINA) LTD.》	北京事務所《BEIJING Rep. OFFICE》	100020	No.605, Beijing Gateway, No.10 Yabao Road, Chaoyang District, Beijing, China	86-10-65915691 ~2	86-10-65915693
爱斯佩克有限公司《ESPEC (CHINA) LTD.》	廣州事務所《GUANGZHOU Rep. OFFICE》	510060	Suite 506, 5/F Yi'an Plaza, 33 Jianshe Liuma Road, Guangzhou, China	86-20-83633001	86-20-83633102
上海爱斯佩克環境設備有限公司《SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CORP.》		200335	166 Ha-mi Road, Shanghai, China	86-21-62390822	86-21-62394953
廣州爱斯佩克環境儀器有限公司《GUANGZHOU ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CO., Ltd.》		510808	Yongfa avenue 6, Huadu-city, Guangdong-province, China	86-20-86881532	86-20-86881529
廣州賽爱環境保護技術開發有限公司《C&E ENVIRONMENTAL TECHNOLOGY CO., Ltd.》		510610	3F Guangzhou xinguang radio factory, Dongguanhuang Road, Tianhe, Guangzhou, China	86-20-87706775	86-20-87706775
韓国エスベック(株)《ESPEC KOREA CORP.》			36-20, Gwandai-Ri, Doonpo-Myun, Asan-City, Choongnam, Korea 大韓民国忠清南道牙山市屯浦面館里36-20	001-82-41-532-1981	001-82-41-532-1983

タビィ エスベック 株式会社

本 社 大阪市北区天神橋3-5-6 〒530-8550
☎(06)6358-4741 (代表)

環 境 管 理 部 京都府福知山市長田野町1-7 〒620-0853
☎0773(27)-3131 (代表)



■本報告書はリサイクル紙を使用しています。

2001. 6 第1刷	2000
2001. 7 第2刷	5000
2001. 9 第3刷	3000